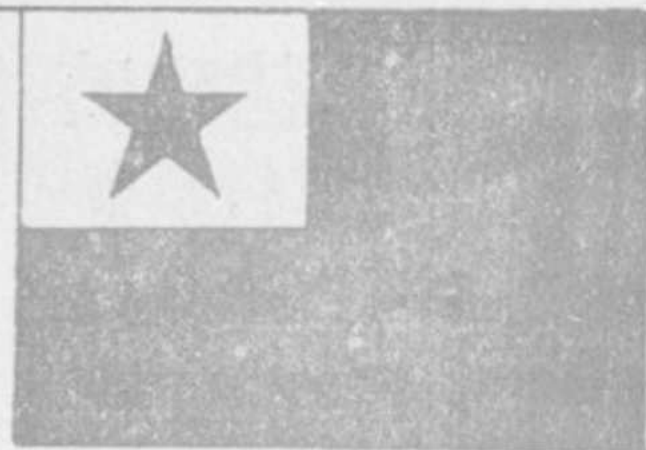


# LA REVUO L'ORIENTA



エスペラント語研究雑誌「ラ・レヴオ・オリエンタ」  
MONATA ORGANO DE JAPANA ESPERANTO-INSTITUTO

JARO VIII  
N-RO 6

第八年 第六號

JUNIO  
1927

## 目次 (ENHAVO)

|                  |           |     |
|------------------|-----------|-----|
| 「馬鹿な人類」にエスペラント   | 石田正雄      | 161 |
| TRA ESPERANTUJO  |           |     |
| 海外消息及内地報道        |           | 162 |
| POR LERNANTOJ    |           |     |
| エスペラント初歩補習例題講義   | 進藤静太郎     | 168 |
| エスペラント初等講義       |           | 170 |
| 危険な錯誤〔對譯詳註〕      | 吉野櫻雄      | 172 |
| 笑話數篇             |           | 174 |
| 新聞のエス語           | 森 露 夫     | 175 |
| 會話のエス語           | 植 田 高 三   | 176 |
| 科學のエス語           | 進 士 正 夫   | 177 |
| マルタ〔海外エス文藝紹介〕    | 平 岡 昇     | 178 |
| 質疑應答             | 岡 本 好 次   | 180 |
| 單語研究雜話           | 川 崎 直 一   | 181 |
| 新刊紹介             | 堀 眞 道     | 182 |
| 太平洋の彼方(滯米日記拔萃)   | 小 坂 狷 二   | 183 |
| LITERATURO       |           |     |
| 運命論者〔國木田獨步原作エス譯〕 | 望 月 周 三 郎 | 184 |
| 東洋古代の解剖學         | 浦 良 治     | 186 |
| EĤO KAJ REEĤO    |           | 188 |
| ALDONOJ          |           |     |
| 倫敦塔〔夏目漱石原作エス譯〕   | 西 成 甫     | 189 |
| リングヴァイ・レスポンドイの譯  |           | 191 |

JAPANA ESPERANTO-INSTITUTO, TOKIO, Uŝigome, Ŝin'Ogaŭamaĉi III-14  
東京市牛込區新小川町三ノ十四 財團法人 日本エスペラント學會  
[Jara abono internacia 7 svisaj frankoj]



## ★本誌臨時増刊『エスペラント初歩入門講義』

全會員へ無料頒布の本増刊は本誌六月號と同時に發送の豫定でしたが遺憾ながら間に合ひませんから七月號と共にお届け致します。

★EHO KAJ REEHO 欄を新設しました。投稿歡迎。(エス文の事)

★新入會員を御勧誘下さい——會員が一人でも多くなればそれだけ本會の基礎が強固になります。

★皆様の會費によつて我々の學會が維持されてゆくのでありますから前金切になれば一日の御猶豫もなくすぐ御拂込下さい。

◇前金切の方には振替用紙を入れてございますからそれを御利用下さい。

◇前金切になつて三ヶ月ほどになつた方々へは失禮ながら集金郵便で近々會費をいただきますにあがります。御留守でも御支拂下さることのできる様御配慮下さいまし。尙集金は法規上三圓以下取扱つてくれませんかから三圓(一年 25 月分の會費と集金料 10 錢)御請求致します。

◇御退會の方は御遠慮なくなるべく早く御申出下さい——遅延は御互の手數ですから。

### 會 計 部

## 當 學 會 新 理 事

財團法人たる當學會の理事はすべて重任されましたが評議員會の推薦により今回新に慶應大學教授望月周三郎博士も理事におなり下さる事になりました。目下當局へ手續中です。

## 出 版 部 よ り お 願 ひ

◇當學會出版書籍御注文は直接當學會宛にせられた方が迅速に御手許へ届きます。又部數による割引も直接當會へ御注文に限りいたしますから十部以上御注文は御面倒でも直接當會へ願ひます。殊にお急ぎの際は當會へ(爲替で送金)直接御注文下さい。(振替は四、五日かゝります)。

◇「捷徑」も大賣捌店へ委托したのも相當賣れましたから今後も當學會發行書籍は東京堂東海堂北隆館文行社大東館等で取扱つて全國書店へ取次いでくれますが、**どうも圓滑にゆかないのが遺憾千萬です。**之は地方の本屋が直接大賣捌店と連絡なくその間に幾つの中繼の本屋があるものですから、どうしても半月位かゝり、しかも時々品切れだといつてごまかすようです。當學會發行の書籍は**絶対に品切にする様なことは致しません**から品切れいへば途中の書店が何かが嘘をいつたのですから飽迄追求して下さい。上の様な次第ですから御急ぎの際は地方書店へ御注文なく當方へ直接願ひます。

◇當會取次の外國書及他店發行エス書は、すべて當會へ直接前金御注文でなければ扱ひません。(大賣捌店を通じて御注文はうけつけません——他店發行のものを大賣捌へだせば一冊につき定價の一割半乃至二割の損失を蒙りますから)。

## 水曜日講讀會

當學會にて毎週永曜日午後7時から例會をかれて Andersen の Fabeloj の I. を讀んでゐます。ごなたでもお出で下さい。會費は無料です。

## 會話練習會

當學會で毎月第一第三の土曜日午後7時からエス語會話の練習をやつてゐます。ごなたでも御出で下さい。會費無料。

財法  
團人

## 日 本 エ ス ペ ラ ン ト 學 會

東京市牛込區新小川町3の14〔振替口座東京 11325 番〕

★本號廣告第一頁第二頁は重要報告及廣告につき御覽下さい★



# LA REVUO ORIENTA

★ JARO VIII, N-RO 6

★ MONATA ORGANO DE J. E. I. ★

Junio, 1927 ★

## 「馬鹿な人類」と エスペラント

石 田 正 雄

「馬鹿な人類」とは、佛蘭西第一流の學者にして巴里醫科大學生理學教授、1913年度ノベル賞金の受賞者、Charles Richet (シャルル・リシェー) 氏の近著 “L'Homme Stupide” (=“Homo Stulta”) のことである。

今や歐洲諸國語に翻譯せられて、名聲噴々たる同書の中に Esperanto に関する一章があり、吾々同志にまつては極めて愉快的な文字であると思ふから少し紹介して見たい。

その前に、同書が大體如何なることを、如何なる調子で論述してゐるのかを一言しやうと思ふ。著者 Richet 氏はその序文に次のやうな意味のことを述べてゐる：—

「Linneaus は生物を分類する時、人類を Homo Sapiens (ラテン語=“Homo Sapa”) の意) と呼んだ。然しこの讀辭は明かに不當である。……吾々は人類をその正反對に呼ぶべきだ。即ち Homo Stultus (ラテン語=“Homo Stulta”) の意) と。……著者は本書が知識階級をも一般民衆をも怒らせることを良く知つてゐる。……愚かだと云はれるのは實に不愉快だ。ましてその例證を挙げられるのは益々不愉快だ。……然し如何に苦くとも眞理は語られねばならぬ」と。

かくして彼は人間が Homo Stulta なる所以を二十三章に分つて論ずる。それも最高の文化を誇る白色人種を主として槍玉にあげてゐる。その第三章に於て彼は Stulteco の定義を述べ「Stulteco とは、事物を理解しないこと云ふことを意味しない。それは理解してゐながら理解してゐないかの如く振舞ふのを意味する。」と。そして色々な例によつて具體的にそれを説明し、動物は nescia ではあるが、stulta ではないとて、nescieco と stulteco の相違を明示し、そして人間が如何に stulta なるかを丹念に例證してゐる。實に萬物の靈長を以て任ずる人間をして顔色なからしむるまでに酷評し痛論してゐる。動物が讀んだらさぞや溜飲を下げることだらうと思ふ。

吾々 Esperantistoj も人間である以上、彼

の眼から見れば Homo Stulta には相違ないが、たゞ一つ吾々同志にまつて嬉しい一事は彼が特に一章を設けて Esperanto に言及し、Esperanto の反對者又は無關心なる者を人間の Stulteco の一例證としてゐることだ。

彼は國際語がたゞ提唱されただけで惹起された世間の愚かな反對論を、石一つ投げられた地中の何百の蛙のたゞギャーギャー啼き騒ぐ愚かさになさへてゐる。彼の反對論者に對する辯駁は別に新しいものではない。ただその強い皮肉な調子は良かれ悪かれ讀者に強い印象を與へずにはおかない。

1, 2, 3, 4 と彼は反對論者に一々答へて來て、『かゝる反對論に答へるのは實に馬鹿馬鹿しい。皆不眞面目なものばかりではないか。それらは要するに一句に盡きる。その「我關せず焉」の一句は、まるで葬ひの鐘の音のやうに響く』と皮肉る。

彼は又、各國の大學の共力によれば、國際語の普及は廿年にして世界の第二語となすことは極めて僅かでも鋭い理知があれば、たやすく理解されるのだ。此の地上の姿を變へるほどの改革が可能であるばかりでなく、實に易々たるものと云ふことを、吾々は感じてゐる。吾々は知つてゐる。然も「われ關せず焉」と云ふ。吾々の未來についての無關心はかくの如くである。要するに、かくも人間の馬鹿なる所以を正直に認めやうではないか。と云ふのである。そして、

吾々が人類の間に新しい心の國を開かうとするやうな大計畫や人間の再生などを計畫する時に、Homo Stulta は目を覺まし、喧々囂々を反對する。そしてアリストファネスの蛙のやうに、ギヤツ ギヤツ ギヤツと騒いで悦んでゐるのだとその章を結んでゐる。

本誌一月號に紹介された Chesterton も、L. M. Wilson も、Richet 氏の口調を借りれば、ただ喧ましい蛙にすぎない。然り、たゞ二匹の蛙にすぎない。



## TRA ESPERANTUJO

## 海 外 報 道

## 汎ヨーロッパとエス語

日本人を母に持つオーストリア青年貴族グーデンホーフ・カレルギ氏の提唱する『汎ヨーロッパ』では凡ての國語の平等權を認めるが、英語を先づ中等程度の學校に於て、次いで初等學校に於て義務的に教ふべきである。若しヨーロッパ各人がその國語と相並んで英語を補助語として自由に操つるならば、ヨーロッパ諸言語の敵對はやみ國際的了解は本質的に促がされるであらう。英語は、勿論綴字上の改正を要するが、その習得の容易さ、そのゲルマン語とロマン語との中間地位は、それを自然的 에스ペラントに運命づけてゐるさて、英語を以つて汎ヨーロッパ補助語にしてゐる。しかし是に不満な人々は Esperanto を補助語にする様に運動してゐたが、最近その機運熟し、奧國首都 Wien に Esperanto Sekcio de Paneŭropa Unio を創立し、去る 2 月中旬その發會式を催した。席上、Wien の U-E-A 總代表 D-ro Edmund Sós (齒科醫) が、その指導者に選ばれ、通信には Esp. を使用することに決定した。尙 D-ro Edm. Sós は R. N. Coudenhove-Kalergi 著 “La Pan-Eŭropa Manifesto” を Esp. 譯した。(S. Aibara)

## 綠化する列車揭示

驛名の揭示を假名書にする事にきめた、すると大臣が變るや電報か電話を飛ばして漢字に逆戻りさせたのは日本の話。これはユーゴスラヴィアからの最近の吉報であつて、同國の交通省は本年 3 月 21 日付の省令を以て、國際列車のユーゴスラヴィアを通る各客車にはすべてエス語の揭示をつける事になつた。世界に擴がる交通網は否應なしにエス語の實用を強要する。他に卒先して、エス語の『日本案内記』を發行した吾が鐵道省がこのユーゴスラヴィアの例に倣ふ日はやがて近い時であらう事を熱望して止まない。

## 國際 Rotary 俱樂部大會

世界各地に太陽の遍在する如く、世界各地に民衆の國際的會合にエス會あり、紳士の國際的會合にロータリー俱樂部がある (Rotary

クラブはその名が示す如く職業を問はず且つ首惱者なども轉々する民衆的な會であるが用語の關係上外國語を操るだけの教養のないものには近づき難い憾がある)。同じく國際的會合であつても兩者の異なる點は一方が國際語で深底まで互に了解するに對し片方はバベルの塔を我慢するか、一國語がはばを利かすかである。さればこそ各地の Rotary 俱樂部でエス語問題が討議の的になつた事は一再に止まらず遂に今年はこの問題が一般に具體化する運びになつた。

合衆國 New Jersey 州の Perth Amboy 市にある Standard Underground Cable Co. (會社) の技師に Henry W. Fisher と云ふ熱心な同志が居る。古くからの學會の會員であつて、實際の意味のエスぺランチストである。彼は又同市の Rotary 俱樂部の會員であつて機會ある毎に同俱樂部會合に際してエス語の話をした。所が本年夏ベルギーの Ostend に於て同俱樂部の國際大會が開催せられるに當り期せずして英佛米等の同俱樂部支部よりエス語採用案を大會に提出せんとの議が起り、Perth Amboy の同俱樂部に於ても全會員一致の意見を以て大會にエス語採用案を提出する事に決議なり、Fisher 氏はその委員長として他の二名の會員と共に Ostend に向け同案提出の爲に出發する事になつた。それによつても吾國にある Rotary 俱樂部はさう云ふ態度を執るか、勿論双手をあげて賛成する事であらうが刮目して今度の成行きを見やう。

## 希望に充ちた太平洋

吾國エス運動の先覺者たる二葉亭四迷が初めて日本語でエス語讀本を書いた動機は、明治 36 年(1903 年)彼が偶然ウラジオストクに於て同市 에스페란토協會の會頭に逢ひ、初めて彼について親しくエス語を勉學した、その時その會頭は切に日本語のエス讀本が出版されん事を望み二葉亭に助力を請ふたが爲であつた。そして彼は 3 年後 1906 年に始めて日本最初のエス語讀本を出して約を果したのであつた。

時は流れて 23 年、1926 年に北米カリフォルニア州から Kalifornia Folieto と云ふ 4 頁の



薄いエス雑誌が発行された。そしてそれは本年に入つて Pacifika Espero を改題し堂々大版8頁の雑誌になりしかも Pacifika Espero Ko., Ltd. なる資本金一萬ドルの大會社を創立して新式5室の家“Esperanta Hejmo”を購入して北米太平洋岸にエス語の爲に氣を吐くに至つた。この盡力者は露西亞人技師の Postnikov を云ふ老人で、誰あらう彼こそ二葉亭四迷が奇しくもウラジオストクで出逢つた往年の同地エスペラント協會々頭である。この新會社は Postnikov 始め數名の同志の創立したものであつて、已に2500ドルの資金を得て尙大方の助力を請ふて居る。會社の事業が已にエス語運動を目的として居る以上多額の配當を望み得ないは勿論の事ながら少くとも激勵の辭を送るなり、“Pacifika Espero”の購讀者になるなりされん事を望んで止まぬ。宛名は Pacifika Espero Ko., Ltd., 1325 Santa Fe Avenue, Berkeley, Kalifornio, U. S. A. なほ同誌の年額會費は1ドル(約2圓)である。

## 親切な警視廳

巴里に長く滞留する外國人はすべて巴里警視廳 (Préfecture de Police) から身分證明書である Carte d'identité を受取らなければならない。が手續の不明な爲問合はせが多く執務中の役人を悩ます事しきりなので、手續規則等を署内に掲示する事になつた。然し問題なのは何分花の都巴里さて訪れるものは世界各國人であり、さりとて世界中の國語で掲示したのではごんなに廣い壁でも間に合はない。そこで賢明にも巴里警視廳はその掲示を佛蘭西語とエス語で書いた。何年か後の者がこの項を讀んだ時曾てはこんな事が珍しかつたのかと驚くであらうが、頑迷と傳統で縛られて居る現代はかゝる悲しむべき現状なのである。巴里警視廳の英斷を喜ぶと共に同志の一層の奮勵を促したい。

## 心の飛行機

アメリカの有名な飛行家であり國際飛行家同盟の會長である Clifford B. Harmon 氏は佛蘭西のエス雑誌“Movado”の主筆 Houbard 氏に書を送つて曰く「地球上の各地間にはもはや距離がなくなつたが、肉體ならぬ心の距離は數世紀前と同じく言語の障壁の爲に

依然として遠い。この現代にあつてエス語がその長所を試み認められた以上吾々はそれを用いる日を待つて居てはならない。云ふも餘計な事ながらエス語が飛行家に役立つ事多大なのであるから世界中の飛行家が今から直ちにエス語を學んでくれると此程嬉しい事はない」と。

3月31日に佛蘭西エス語ひろめ會 (Societo Franca por Propagando de Esp.) の會長であり同國の自動車及飛行界の先覺者である Ernest Archdeacon 氏は、國際飛行家同盟の本部でエス語と飛行に就いて演説し、聽衆の中には佛蘭西で有名な飛行家が可成りあつた。彼は1925年露西亞飛行機がモスコウから北京まで飛んだ時この壯舉に加つた新聞記者 Rozenblat 氏が蒙古の首都庫倫や上海や北京に於ていかに同志等の熱烈な歓迎を受けたかの實例を引いて聽衆の注意を促した。そして演説が終るや直ちに Cart 教授の指導の下に特別な講習が開かれた。

朝日新聞の訪歐飛行や、佛蘭西から無着陸で飛んで來ると云ふ訪日飛行は、地球上の距離の短さを如實に見せてくれた。しかも各國人間の心の距離は依然として短縮されない。エスペラント、それは人類の心の飛行機だ。

## 資本は國際的に移動する

それを妨げる原因は種々あるが言語の障壁もその一つの要素である。國際的な銀行は資本を投資する際言語の障壁の爲に技術的に色々な困難に遭遇する。歐州の如き各小國蟠居の地にあつては銀行の受取る小切手、爲替、領收書等は色々な小國語で書かれてあり一見その判別に苦しむ事も少なくない云ふ。されば波蘭の有力銀行團はエス語を實用するに決し、銀行家の寶典と稱せられる Skinner, Bankers' Almanac & Year Book や Deutscher Bankbeamten-Verein (獨逸銀行聯盟) の便覽の如きもエス語の部を添加して實用に供して居る。尙進んで銀行界にエス語を徹底させる目的の會に Bankfaka Esperanto-Asocio Tutmonda (Güntzelstrasse 31, Berlin-Wilmersdorf, Germanujo) があつて各國の同業者の加入を求め今夏開かれる Danzig の萬國エス大會に分科會を開いて具體的實行方法を協議する事になつて居る。同會の會費 2 sv. fr. (約1圓弱)、吾國よりの會員を求めて居る。宛名は上記の通りである。同志の助力を望む。



# 内地報 道

## 日本少年達の宣言文

國際聯盟協會兒童部で五月五日の節句に世界の少年に送つた日本少年の宣言文(エス語)は次の如し(3, 4月號參照)。

### DEKLARACIO

Ni, japanaj knaboj, festas la kvinan tagon de Majo, kiel la "Knaban Tagon". Tiu ĉi festtago devenas el niaj malnovaj moroj kaj rememorigas nin al forta deziro vivi juste kaj pace. La ĉarmaj legendoj pri niaj antikvaj herooj kaj la dolĉaj figuroj el la legendoj vivigas en nia koro tre viglan forton, kiu ne lasos malbonon kaj maljuston esti sur nia terglobo.

Manon donu kore niaj fratoj en la mondo. Ni laboru pro la paco de l' mondo; ni klopodu pro la bono de l' homaro.

Okaze de la "Knaba Tago", ni, japanaj knaboj, frate salutas vin, ĉiuj knaboj en ĉiu mondparto, kaj laŭte krias ke la estonteco estas la nia.

## エス語の實用化

日本青年館發行の雑誌『青年』の本年1, 5, 6月號に亘り同志乙部泉三郎氏が「愛國團體ソコロ聯盟」なる記事を寄稿されてゐるが之は同氏がブラハの同志シユステル氏からエス語にて書き送つてきた報告書に基いて書れたものだ。同氏は今後もエス語を用ひて各國青年團運動の報道を聚集する御計畫の由。因みに該記事については非常な反響があつた。尙又雑誌『民族』の五月號に粟飯原晋氏が「馴鹿民族の生活」と題して紹介されたのは洪牙

利の Teodoro Schwartz 博士の著 "Modernaj Robinzonoj en la Siberia Praarbaro" の一部分を拔萃して寄稿されたもので其論文の最後にエス原書より譯したことを書きそへられてある。

## 英語全廢論と Scott 夫人

講談社の雑誌『現代』五月號には藤村作博士の中等學校英語全廢論が掲げられ尙同社ではそれに關する賛否其他の投稿を歡迎してゐる。それが英譯されて英文大阪毎日にさへ連載されて大分各方面の反響をよびおこしてゐる。我々エスベランチストは中學の英語に代つてエス語が教授さるべきことについて大いに同雜誌社へ投書して輿論に訴へるべきであらう。前月號記載の組育大學教授スコット氏夫人は其英文毎日の藤村博士の論文に對する某氏の反對論を反駁して英語の國際語たるべからざる事を論じた寄稿をされた。同夫人の該論文の論旨は本誌前月號の Sayer 氏の論文と似たもので英語の國際語とすべからざるを論じエス語を推稱せしものである。同夫人の京都滞在中數回矢戸氏が同夫人を訪問された。尙同夫人は5月15日頃上京され25日水曜日の學會例會に際し學會を訪問された。Casey 嬢と由里君同伴來訪。種々エス語のみにて歡談を交へた。同夫人の話によれば先般日本へ渡航の節船中にて外人五名日本人五名に對しエス語の講習をしたことが大いに自分の勉強になつた等話してゐた。(寫眞參照)

### 東京

三田四谷の兩慶應エスベラント會は4月25日19時より主婦之友社にて第二回親睦會兼鷺見博士祝賀會を開催、會するもの二十名。草刈氏の開會の辭を始め、鷺見、川上兩博士、飯田、粟飯原諸氏の演說より自己紹介に至る迄悉くエス語の愉快な水入らすの一夕であつた。尙當日、三田の園教授、四谷の望月博士が共に御病氣の爲出席されなかつたことは眞に残念であつた。★三田慶應エス會では前小泉會長に次ぎ、園乾治教授を會長に迎へ5月5日より同教授の初等講習を開講、興味ある經驗談等を交へて倦きぬ教授振りに學生の注目を引いてゐる。



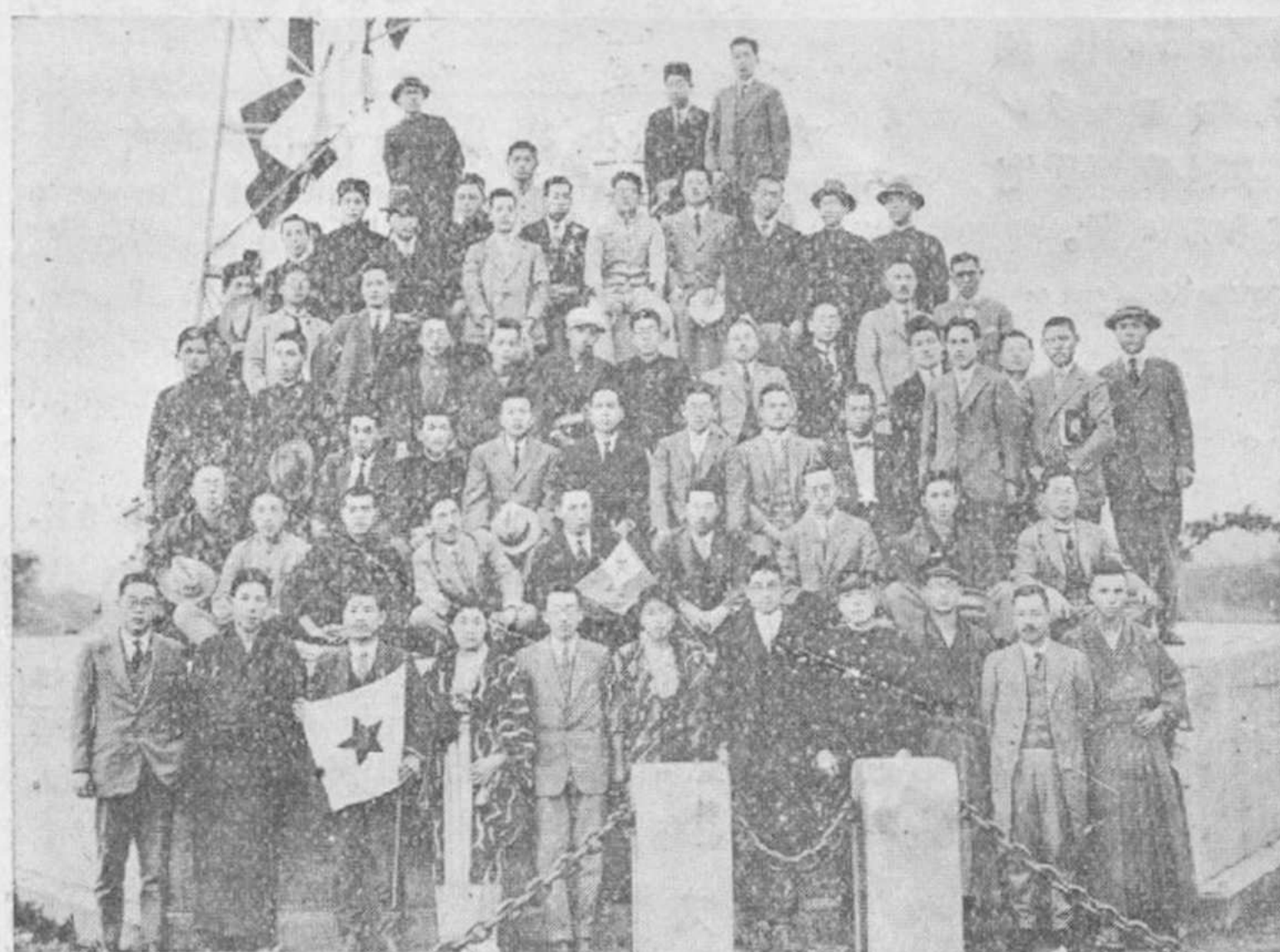
〔寫眞説明〕松江でのエス講習(前月號133頁記事參照)  
中列左より四人目講師安達眞文氏。



尙中等科研究科等も盛大。(松本氏報) ★4月30日18時より東大山上御殿にて Eskulapida Klubo の月例会あり。會するもの各醫大學生教授等30名。千布利雄氏を招待して同氏の感想談をきいた。★新學年に際し各地各學校にてエス語講習會が開催された。

## 大阪

毎火曜京町堀ビルで例会開催。F. K. 中の anekdotoj を研究中。石井、米田氏等の間に熱烈な diskutoj がいつも起り仲々活氣横溢してゆかいです。(川崎氏より) ★我 Pioniro 會も順調に進行してゐます。中央電信局での講習會は毎日開催。出席者數名。5月7日船場郵便局での毎月一回の辯論者でエス語の講話をしました。尙10日から毎週三回數ヶ月間講習の豫定。(山中氏報)



大牟田エス講習會員と藤澤教授一行。前列右より。新谷講師、植田會長、畑、城戸崎、藤澤教授、新谷、江口、吉野、鹽山、池田、橋本の諸氏

## 三重

既報久居町での一志エス會の講習は15名参加。熱心な質問等あり。多大の効果を収めた。(中西氏報)

## 大連

當地佛教青年會主催の外國語常識講座は4月7日より8週間に亘り開かれ英佛獨露支鮮蒙エス語を各6時間宛講義したがエス語は尾花氏講師として短期講習として右講座中最も優秀の成績を収めた。

## 釜山

4月26日朝緑の旅に上らるゝ淺田博士夫妻が當地を通過されるので市中を御案内し bonan vojaĝon を祈つてお別れした。其の後で當地にエス會設立の計畫をたて目下準備中です。(荒木氏報)

## 京都

5月9日午後7時より京大樂友會館(京一中前)にて例会を開いた。

20名出席。新顔も多く浦和高校から來た堀内君などの闘將を迎へて盛會であつた。今後は毎月15日に同所で例会を開く故多數同志諸兄の御出席を乞ふ。

## 鎌倉

の神奈川縣師範學校では熱心な同志村上主事の御盡力で附屬小學校訓導26名に對し5月7日萩野中將の御臨席を得て初等講習會を開催。7月31日迄毎土曜19時より2-3時間。講師横須賀の松葉菊延氏。同講習會終了後に講演會展覽會等開催の豫定なりと。

## 廣島

先日電車中にて最近長崎から來られた井上祥太郎氏に會ひました。目下廣島鐵道郵便の方に勧めてゐる青年數人が小宅へ來られて共に研究してゐます。(佐野氏より)。

## 大牟田

第二回講習終了の三日前4月27日に講習會員に刺戟を與へて戴くべく九大藤澤教授の御來牟を乞ふた。一行は藤澤先生の外に江口廉氏九大學生城戸崎、畑兩氏の四名。集るもの70餘名。公會堂の大廣間に寛いだ茶話會の形式で開會。江口氏はエス運動の現況に就き熱辯をふるはれ藤澤教授は流暢なエス演説に一同を感動せしめた(城戸崎氏通譯)。城戸崎畑兩氏の俗謡のエス歌が數番。其他自己紹介等色々21.5時散會(寫眞參照)。講習終了後講讀研究者(73名

中)45名を得たのは藤澤先生の賜である。之を六分會に分ち舊會員が分擔指導することにしてゐる。(植田氏報)

## 吳

吳驛講内(改札口出口)の自動車賃金表の終りに「國際補助語エスベラントを學べ」と書いてある由。關口氏の盡力による。

## 長崎

植田新夫妻に紀念品(ザ博士及ビ Venusの像)進呈。★4月17日緑の家で淺田博士送別會を僅す。20名参加。博士の緑の旅の出色の點は U. E. A. の delegitoj 80人に法醫及エスに關する調査と旅行の便宜を前以て依頼した事である。博士は25日出發沿道各地の歡迎を受けて5月5日ハルビン入。同市の P. Pavlov 氏は二回も博士夫妻の爲晩



餐會に招待。日露支の同志と交歓。Moskvo, Leningrado を經て Polujo へ向ふ。博士夫妻は波蘭でザ博士墓前に額き墓畔に日本の代表木杉(Cryptomeria Japonica) と **なぎ**(Podocarpus Nagia) の種子を蒔かれる由。之等は高原谷口兩同志の撰定による。尙博士の旅行記は大阪毎日福岡日々に出る由。★4月14日井上祥太郎氏は廣島へ轉勤。同氏の廣島での活躍を祈る。★緑の家立退き——過去一年間長崎支部のクラブとして使用してゐた本大工町の緑の家は家主松田氏の都合により一時立退く事になつた。目下適当な家を物色中。★5月21日緑の家最後の晚餐會をかれて藤澤教授歡迎會を開いた。21名出席。高原氏の saluto 飯田八重子ちゃん(10歳)の parolado の後藤澤氏は城戸崎氏の通譯の下にロマンローラン氏と會見についての演説あり。暫く高原氏宅に滞在。日蘭外交史の調査をせらるゝ筈。

### 金澤

★四高エス會 新講習開始。20名。毎木曜。講師伊藤己酉三氏。5月12日新舊會員一同茶話を開いた。エス運動現狀について話す。★一中エス會。新講習。40名。中等講習は8名。講師内田教諭。4日校内の新入生歡迎辯論會にて松居良平君(通譯高橋七郎君)が會の紹介を試み。多大の感動を與へた。★金澤エス會 新講習8名。講師池田善政氏。上級講習續行。

## ★ 青い目のお人形を迎へてエス語で禮狀を ★

先般米國から澤山の人形が日本の少年少女達へ送られてきたことは新聞紙で皆様の御承知の通りであるが、それが文部省の手をへて全國の津々浦々の小學校へ送られて各地で歡迎會が催された。人形の胸には英語の手紙がそへられて送り主の署名がしてあつた。各地の學校では先生が何語で禮狀を書いたでせう。米國から英語できたのだから日本から日本語で書いていゝ筈でせうが卑屈な日本人ですから恐らく破格の日本式英語で禮狀を出した事でせう。

こゝに我同志にこつてよろこばしい通知が二つ當會の手許へきました。一つは宮城縣伊具郡金山町小學校の先生をしてられる我熱心な同志島崎捨三氏からです。同氏の書信に曰く『我金山小學校では先般米國から贈られた人形に對して贈主へ禮狀を出すに際してエスペラント語で手紙を書きました。手紙は紐

## 新聞雑誌とエス語

★福岡日々新聞(5月6日)——エス語舊新約聖書の刊行に就いて——大島廣博士。

★事業の日本(五月號)——國際語エスペラントと其商用的方面——曾根一郎氏。

★速記研究(五月號)——中根式速記法發表記念日に際して——森卓明氏。(エス運動と速記の普及とを比較して種々説明されてゐるのは興味が深い。)

★永松之幹氏最近高崎登美子氏と御結婚。

★佐々城佑氏夫妻麴町區四番町9へ御轉居。

★滿洲安東エスペラント會所在地——安東縣六番通圖書館内。代表中原五郎氏に變更。

★三重縣立松阪商業學校エス會新代表者岡田源平氏。

### ★★★ 小坂氏より ★★★

Karaj Samideanoj—La 4an de tiu ĉi monato mi alvenis Londonon kaj la lastan mardon mi vizitis S-ro Butler ĉe Brita Esperanta Asocio. Kaj la saman vesperon mi faris paroladon antaŭ la kurso por progresintoj ĉe Commercial Institute. Poste pli detale. (三月出)

Karaj Samideanoj—Mi nun havas tre feliĉan tempon en Parizo. S-roj Hasegaŭa, Niŝimura kaj Dujef venis al la stacidomo por renkonti min okaze de mia alveno vespere la 12-an. Sub la gvido de nia Hasegaŭo mi ĉiutage vizitadas la vidindaĵojn de la urbo. Pli detale poste. (16/IV 出)

育のdelegitoを介して送ることにしましたからこの手紙がエスペラント語で書いてあることが判りませう。この結果については何れその人から報告がありませう。我々はその良果をむすばむことを期待してゐます。全國の各學校でもぜひエス語で禮狀をだしてほしいと考へます……』と。我々は島崎氏の努方を感謝し各地同志の奮起を望みます。

第二の手紙は長崎支部からでした。

先般來本誌本欄で御存じの日本における最も年若い bona esperantistino たる飯田八重子さん(本年十歳)は一年程前から高原氏についてエス語を學んでみて今日では第三冊目を讀破しようとしてゐるさうで簡単な會話なんか全く自由自在だそうです。高原氏多忙の折は濱田氏が指導に當つてられる由。所でこの嬢ちゃんは長崎市伊良林小學校の四年生の首席ですので今度米國からきた青い眼の人形の



贈主へ禮狀をだす役目をいゝつかつたのだそうです。お友達は先生に英文の禮狀を代作してもらつて出したのですが我八重ちゃんはエス語を學んでゐるのはこんな際のお役にたてるためださばかり先生に申しでゝ下の様なエス文の禮狀を書いて出したそうです。八重ちゃんは今秋の福岡の大會に出席して大人のエスペランチストをアツミ云はせてやるうさ目下一生懸命勉強中の由です。

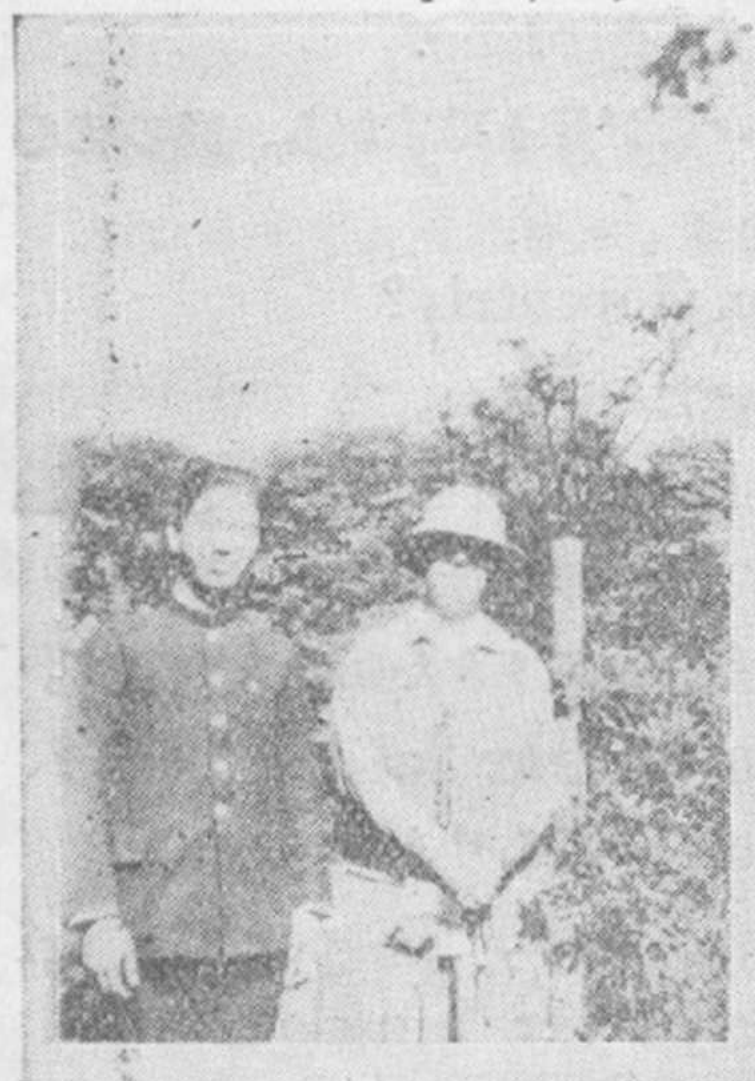
Nagasaki, La 29-an de Aprilo, 1927.

Estimata Sinjorino!

Kiel min ĝojigis la sciigo, ke pupoj finfine alvenis al Jokohama el Usono tre malproksima de nia lando, transpaŝinte la maron kaj montojn per ŝipo kaj vagonaro!

Kalkulante mi arde atendeĝis la tagon, kiam bluokulaj gastoj vizitos nin. Eĉ en sonĝo mi ofte vidis ilin.

La 19-an de Aprilo, ni, knabinoj nigroku-



〔寫眞説明〕左圖はスコット夫人と矢戸氏(京都にて)

右圖は長崎の飯田八重子嬢

laj, bonvenigis unu el ili ĉe la lernejo.

Kiel aminda ŝi estas! Kiam ŝi diris "Panjo! Panjo!" malfermante la okuletojn, mi tre amis ŝin.

Koran dankon al vi! Nun ni tre amas kaj zorgas ŝin. Ŝi fariĝis nia bona amikino. Mi ĝojas ke mi sendas mian fotografajon al vi. Bonvole amu min, mi petas.

Mi skribas per Esperanto, ĉar mi ne povas kompreni la lingvon de via lando. De antaŭ nelonge mi lernas Espranton kaj nun povas ĝin skribi kaj paroli. Se vi ankaŭ ĝin lernos, mi estos tre feliĉa.

En nia lando, Japanujo, de nun iom post iom fariĝas varme.

Via Transmara Amikino.

J. Iida

## 地方會の構成の仕方

各地で毎年幾度も初等講習をやつてゐるが講習後は少しも面倒をみないので講習の眞の効果は殆んど擧らないのは遺憾千萬である。初等講習後の指導を如何なる方法でなすべきかは大問題である。植田半次氏を會長とする大牟田エス會のやり方は此方面を最も考慮にいたれた名案と思はれるからこゝに紹介しよう

同會では一つの講習が終る毎に其同期の講習會員をして數個の分會を組織せしめ各分會毎に古い同志を一人宛 gvidanto として配置し(會長委囑)其分會の研究に出席指導せしめる事としてゐる。(分會は會員の自治による)。そしてこの澤山の分會が集つて大牟田エス會を構成してゐるので會費は本會の方へ納める様になつてゐる。

之は餘程うまい遣方だと思ふ。つまり初等講習後數十人の人を講習後も連續して毎月何回か研究會を開き全員が一堂に會合するといふ事は經費(會場借用費其他)の上からみて又各自の職業の差異等によつて不可能である。上の方法でゆけば各分會は十人位の人で構成される故研究會場としては誰か有志の家の一間を借りる様に(六疊一間位にて十分故)すればよく又各分會の會員はなるべく境遇の同じ人々を以て組織せしめる事にすれば研究會の出席率もよく(同じ會社商店に勤務

するものはそれで一分會をこしらへるから出席し易い)なり何かにつけて便宜が多い。又各分會間にも多少競争心もでゝ勵みもつき又各分會相互の連絡を密接にしてをけばいざといふ場合に多人數の協力を得る事ができる。

この方法で分會の數を増してゆけば數百人の會員を作るのも至難ではないと思ふ。

エス語に關する記事ある一般書籍名(昨年八月號に第一回發表)とエス語のtitolo をつけた一般雜誌名及商店のエス看板等につき報道いたゞきたし。



# エスペラント初歩補習例題講義

## 第四課

進藤 靜太郎

守  
則

1. 音讀——小さな聲でも力強く。
2. 想像——文意を眼前に描いて。
3. 自由——例題に囚れぬ様。改作も可。

今までは、*Rozo estas bela floro.* 薔薇は美しい花です。さか *Ananaso estas dolĉa frukto.* 鳳梨はうまい果物です。さか守則第2を守るにしても餘りに實際に關係のない例が多くて實感を生むに大變不便であつたが捷徑第三課 § 5 以下同課練習によつて習得する前置詞によれば日常坐臥の事物が練習例題と化し想意新に甦り大いに學力を増進する事が出来る。前置詞及其他の助辭は言語にこれほど重要で又文體評價上この前置詞並びに他の助辭を如何に巧に驅使するか一つの重要な標準となる位である。故に諸君も課程の進むに従つて益々助辭に練達する様稽古せられたい。殊に本誌一月號よりの初等講義によつて裨益せらるゝ事が多いだろうと思ふから其精讀玩味を推奨する。

そこでなるべく今日まで使つて來た單語を前置詞(捷徑33頁までの)の力によつて、今私の手近な事物を言葉に生かして行きましょう。諸君もごしごし勝手になやりなさい。

**Sur** la tablo estas bela dalio, Esperantaj libroj, kaj kajeroj.

机の上には美しいダリヤー輪と、エスペラントの本數冊と手帖があります。

*La dalion mi prenis de la ĝardeno kaj metis sur la tablon.*

(その)ダリヤーの花は私が庭からさつて来て(この)机の上に置いたのです。

*La esperantaj librojn mi aĉetis de J. E. I.*

(その)エスペラントの本は日本エスペラント學會から買ったのです。(Japano Esperanto-Instituto)

*La kajeroj estas de miaj gefratoj.*

(その)帳面は私の弟妹のです。

*Kiu estas kajero de via fratino?*

ごちらが妹さんの帖面ですか。

*La rozkolora (kajero) estas de mia fratino.*

(その)桃色(バラ色)の(帖面)が妹のです。

*Kion ŝi skribis en ĝi?*

その内に何が書いてありますか。

*Ĉar ŝi amas belajn florojn, ŝi pentris florojn en la ĝardeno.*

彼女は美しい花が好きですから、庭の花を描きました。

*Kiun floron ŝi pentris?*

どの花を描いたのですか。

*Ŝi pentris la flavan dalion sub la arbo.*

あの木の下に黄いダリヤを描いたのです。

*Kion ŝi pentras sur la dua paĝo?*

何が第二頁に描いてありますか。

*Sur la dua paĝo, ŝi pentris tri oranĝojn kaj kvar bananojn.*

第二頁にはオレンジ三箇とバナナ四本描いてあります。

*Kion via frato pentris en sia kajero?*

弟さんは何を帖面に描いてゐますか。

*Jen, vidu!*

それ、ご覧なさい。

*Sub la monto, mi vidas du tunelojn.*

山の下にトンネルが二つ見えます。

*Per kiu krajono li pentris la monton?*

どの鉛筆で山を描いてありますか。

*Li pentris la monton per verda krajono.*

山は緑鉛筆で描いたのです。



Kio venas el la tunelo?

トンネルから何が出て来てゐますか。

Vagonaro elvenas el la tunelo.

列車がトンネルから出て來ます。

Alia vagonaro iras al la tunelo  
trans la rivero.

他の列車は河向ふのトンネルに向つて行きます。

Ĝi eniros en la tunelon kaj iros  
trans la monton.

トンネルに入つて山向ふえ行くのでしょ  
う。

Dankon. Li tre bone pentris. Ĉu  
mi ĝin metu sur la tablon?

有難うございました。なかなかお上手で  
す。机の上えお置きしましょうか。

Jes, dankon. Ĉu vi ne volas promeni  
kun mi ekster la domo?

はい、どうぞ。私と戸外を散歩になりませ  
んか。

Jes, ni iru en la arbaron.

はい、森の中え参りましょう。

Venu sub la arbon, ni ripozu sub  
la arbo.

木蔭えお出なさい(木の下え)。木の下で休  
息しましょう。

前置詞の後に目的格 -n の付いた形を用ふ  
るのはザメンホフ博士の言はるゝ通りそれ自  
身に方向を示さない前置詞(即上の例では  
en, sur, sub 等)が更に方向を示す必要な場  
合に用ふるこゝ上掲の例の通りである。(詳  
しくは本誌二月號三月號に互る「リングヴァ  
イ・レスポンドイの譯」参照)エクセルツアロ  
第廿八節(Fundamenta Krestomatio では第十  
七節)もこの説明に費されてある。

Kiu と Kio (それから後に出て来る Kia  
と Kiu) の區別も是非しつかりさして置かれ  
ばならぬから、練習が済んだ後も一度捷徑 24  
頁の註を精讀して各自に練習する。

本稿によつて練習された方の御質問及自作  
練習文等に付き御希望ならば筆者がお相手し  
ます。宛名は

兵庫縣武庫郡住吉村反高林 筆者宛

本稿に付いて一言

三月號より引續き貴重なる誌上を拜借いた  
しましたところは、小生が小坂狷二先生の薫  
陶の下に在つて常々「講習は其場限り口から  
出まかせの際物であつてはならぬ」その訓言  
によつて、S 中學の好意の下に行つた講習の  
經驗から得たところに依り、大體

第一課：學習者にさつて親みのある語を中  
心としたもの

第二課：最も單純な身邊を主材とした會話  
的練習

第三課：接頭接尾字應用例

第四課：前置詞入りの會話的練習

の様な目標で作つたものであります。特に慣  
熟——自信と云ふ點から會話的練習を用いた  
のであります。

生憎三月來在營中の胸疾再發の爲それに依  
つて本稿を少しでも充實したものにする爲計  
畫して居つた講習會も出來ず又原稿も大分拙  
いものになりましたので、餘り稿を續けるの  
も机上の空論となり不本意ですから最後に接  
頭接尾字應用の今一つの例を載せていたとい  
て筆を止めたいと思います。

この様に拙いものにも關らず岡本編輯委員  
の手引によつて續稿さしていただきましたの  
は、思ふに實地經驗に基いた初等講義を重要  
視せらるゝ編輯委員諸君の敢て死馬の骨に千  
金を投ぜらるゝ所以のもので、これによつて  
千里の馬の至らん事を私も隱に期する次第で  
あります。

思えば未だ開拓せられざる範圍は猶廣きに  
及びます。即外國語の知識なき學習者入門の  
際の教材、未成年者に對する場合、幼年者に  
對する場合等々實にこれ等にエスペラント普  
及が今後當然向はなければならぬ方面にして  
しかも今その要求の聲の現に上りつゝあるこ  
ろに處する準備は一日も忽にすべきであり  
ません。

何卒、各地有能の諸兄が惜みなくその豊富  
な知識を盛られた原稿を以てこの頁を充たさ  
れんことを熱望して止まぬ次第であります。

尙これ迄の拙稿に就き質問又は御垂教下さ  
る方は直接筆者えお願いします。

何事にまれ熱誠をこめてせらるゝ進藤氏の  
御講義は初歩の方のみならず初歩の方々の手  
引をせらるゝ方には深い暗示と教訓を與へて  
くれました、未だ十分御病氣の御快癒のない  
爲め一時筆をおかれたいこの事で甚だ遺憾千  
萬でしたが、最近の御手紙によれば大變御よ  
ろしいそうですから無理にお願いしてこの講  
義を繼續してもらふつもりであります。

(編輯部)



# エスペラント初等講義

## 第七課 接頭字と接尾字

Nian domon ĉirkaŭas ĝardeno. Ni ofte ludas tie en ĉiu sezono. Niaj gepatroj<sup>1</sup> venas en la ĝardenon por prizorgi ĝin. Nia avino<sup>2</sup>, la bopatrino<sup>3</sup> de l' patro, ofte nin vizitas kaj vespere ripozas tie en la beleta<sup>4</sup> laŭbo kun ni.

La ĝardenisto<sup>5</sup>, kiu aranĝis la ĝardenon laŭ la komizio de mia praavo<sup>6</sup>, dividis ĝin en multajn bedojn. Mi havas mian propran bedon kaj ofte rastas per rastilo<sup>7</sup>. Mi tie plantas florherbojn. Hanjo<sup>8</sup>, mia fratineto, ankaŭ havas sian bedon sed ŝi tute ne prizorgas ĝin.

Iam hundaĉoj<sup>9</sup> kelkope<sup>10</sup> ŝtele envenis en la ĝardenon kun siaj hundidoj<sup>11</sup> kaj disrompis<sup>12</sup> florarbojn en pecetojn kaj deŝiris legomojn. Kiaj malamindaj<sup>13, 14</sup> bestaĉoj ili estas!

Miĉjo<sup>15</sup>, bona studema junuulo<sup>16</sup>, samklasano<sup>17</sup> de mia pliaĝa frato, ofte nin vizitas kaj li ĉiam predikas al ni pri Esperantismo<sup>18</sup>.

Monto Fuji estas bone rigardebla<sup>19</sup> de nia laŭbo en la serena tago. Ravema<sup>20</sup> figuro de l' montego<sup>21</sup> kovrata de blanka neĝo ĉe la supro, kiu sin montras en blua ĉielo alte super la malproksimaj montoj kaj arbaroj<sup>22</sup> kaj la vastaj kampoj havas grandan allogecon<sup>23</sup>.

花園が我々の家をさりまいてゐます。我々はどの季節にもそこでよく遊びます。我々の両親<sup>1</sup>も庭の手入れにこゝへやつてきます。御祖母<sup>2</sup>さん——父さんの姑<sup>3</sup>にあたる——もよくうちへいらつしやつて晩にはいつも我々と一緒に庭の小ざれいな<sup>4</sup>四阿(びやう)で休息します。

曾祖父<sup>6</sup>の依頼をうけてこの庭を造りあげた庭園師<sup>5</sup>は庭を澤山の花壇に分割しました。私も私自身の花壇をもつてゐます、そして時々熊手<sup>7</sup>でそこをかいてやります。私はそこに草花を植えます。私の妹のは一ちゃん<sup>8</sup>も自分の花壇をもつてゐますがちつともかまひません。

いつか犬のやつ<sup>9</sup>がこつそりと五六匹連れ<sup>10</sup>で仔犬<sup>11</sup>をつれてこの庭へ忍びこんできました、そして花の樹を細々にぶち折つ<sup>12</sup>てしまひ野菜をひんむしりました。なんさいふ憎むべき<sup>13, 14</sup>畜生たちでせう!

若い<sup>16</sup>勉強家で私の兄さんの同級生<sup>17</sup>のみいちゃん<sup>15</sup>はよくうちへやつてきます。そしていつもエスペラント主義<sup>18</sup>の御説教をします。

富士山は天氣のよい日にはこの四阿からよくみられます。<sup>19</sup>あの頂上を白雪で蔽はれた山<sup>21</sup>が遠くの山や森<sup>22</sup>や廣い野の上に高く青空に姿をあらはしてゐる恍惚ささすばかり<sup>20</sup>の姿は大きな魅力<sup>23</sup>をもつてゐる。



上文中には皆様が既にお學びになつた接頭字接尾字の中二十餘種を選んでのせました。この次は残りの十幾つかについてさくこゝに致します。ですから本課と次の課をお研究下さればこれ迄既にお學びになつた接頭字接尾字全部の復習ができるわけです。接頭字接尾字は我々日本人にとつても前置詞其他の助辭の様にむづかしいものではありません。

次に上のエス文中にある接頭字接尾字をalfabeto順に列挙して例をあげておきました。尙説明文句中の( )の中の數字は上のエス文中の接字の左肩の數字と同じものですから對照して研究下さい。

## 接 頭 字

**bo-** 姻族關係を示す。(3)

例:- *bofrato* 義兄(弟), *boparencoj* 姻戚。

**dis-** 四方八方へ分散すること。(12)

例:- *dissendi* 配布す, *dispeli* 追ひちらす。

**ge-** 男女兩方をあげて云ふに用ふ。(1)

例:- *gefratoj* 兄弟姉妹, *geknaboj* 男女兒。

**mal-** 正反對を示す。(13)

例:- *malamiko* 敵, *malbona* 惡。

**pra-** 今からみて時間的に遠いもの。(6)

例:- *pranepo* 曾孫, *pratempo* 古代。

## 接 尾 字

**-aĉ-** 粗惡, 劣惡を罵る時に附加す (9)

例:- *ĉevolaĉo* 驚馬, *kuracistaĉo* 籤醫者。

**-an-** あることに屬する「一員」を示す。(17)

例:- *urbano* 市民, *ŝipano* 船員。

**-ar-** 集つた物, 集團を示す。(22)

例:- *vagonaro* 列車, *homaro* 人類。

**-ĉj-** 男子の名に附して愛稱さす。(15)

例:- Vilhelmo から Vilheĉjo, Vilĉjo, Viĉjo 等を作る。

**-ebl-** 何々され得べき (可能性ある) 意。(19)

例:- *videbla* 見られ得る, *legebla* 讀まれ得る。

**-ec-** 本質, 性質を示す。(23)

例:- *acideco* 酸性, *blankeco* 白さ。

**-eg-** 大きさや度合の強大を示す。(21)

例:- *pluvego* 大雨, *ridegi* 大笑す, *pordego* 門。

**-em-** 「…し勝ちな」傾向趨癖等をさす。(20)

例:- *kolerema* 怒りつぱい, *laborema* 働きの。

**-et-** 大きさや度合の弱小を示す。(4)

例:- *rivereto* 小川, *rideti* 微笑す, *faleti* 躓く。

**-id-** 子, 子孫を示す。(11)

例:- *kokido* ひよつこ, *bovido* 仔牛。

**-il-** あることのための道具をしめす。(7)

例:- *pafilo* 銃, *flugilo* 翼, *kudrilo* 縫針。

**-in-** 女性を示す。(2)

例:- *instruistino* 女教師, *nepino* 孫娘。

**-ind-** 何々さるゝ價值ある。(14)

例:- *laŭdinda* 感心な, *memorinda* 紀念すべき。

**-ism-** 主義, 教(義)を示す。(18)

例:- *Kristanismo* キリスト教, *Darvinismo* 進化論。

**-ist-** ある事に従事してゐる者たるを示す。(5)

例:- *kuracisto* 醫者, *botisto* 靴屋(人)。

**-nj-** 女子の名に附して愛稱さす。(8)

例:- Mario から Manjo 又は Marinjo をつくる。

**-op-** ある数だけの集合を示す。(10)

例:- *kvinope* 五つ一緒に, 五人連で, 五人がゝりで。

**-ul-** (ある性質, 特性ある) 者をさす(16)

例:- *malsamulo* 病人, *saĝulo* 賢人。

以上の接字(=afikso=接頭字及接尾字の總稱)は 大抵覚えやすくてやさしいが中には一寸日本人にとつて面倒なものもある。

-ĉj- と -nj- は名前につけるのだがその名前の一部分につけるので 日本語でも 春雄を「春雄ちゃん」「春ちゃん」「はーちゃん」等勝手に省略してよいのと同じである。

-ebl- は受身であることを忘すれてはならない。… ebla は povas esti … ata であつて povas … i ではない。Ĝi estas legebla はそれが讀まれ得ることで即ち Oni povas legi ĝin で Ĝi povas legi では斷じてない。



# 危険な錯誤

【Danĝera Eraro】

吉野櫻雄

En iu urbo malleviĝis la nokto. Estis dum tiu epoko, kiam ankoraŭ ne bruis la vagonaroj kaj ne rapidis la aŭtomobiloj. Pro tio la stratoj kuŝis silente en mallumo, ĉar ankaŭ lanternoj mankis tiam en la urbeto.

Tre malofte homo sola rapidis tra la stratoj malforte lumigataj de l' duonluno. Malgranda knabo kun botelo en la mano paŝis timeme tra la nokto. Li haltis antaŭ apoteko kaj tiris la sonorilon.

La apotekisto jam dormis kun sia familio. Nun li ĉagreniĝis esti vekita dum noktomezo. Kiam li malfermis la fenestron kaj vidis la malgrandulon, li ĵetis kelkajn vortojn de kolero. La knabo ekploris. Pro tio la apotekisto malfermis la dompordon.

“Kion vi deziras, knabo?” li demandis, malfacile kaŝante sian koleron.

“Mi volas aĉeti medikamenton por mia panjo. Si estas malsana preskaŭ ĝis morto. Bonvolu rigardi la recepton!”

Dum la viro pretigis la kuracilon, la knabo timeme kaŭris en angulo. Post kelkaj minutoj li akceptis la plenigitan botelon kaj kuris hejmen por helpi sian karan panjon.

La apotekisto ree enlitiĝis. Subite li eksaltas kaj rapidas malsupren.

Ĉu mi donis al la knabo la ĝustan

ある町で夜の帳がおりた時でした。汽車も騒しい音をたてず自動車も疾駆してゐない時代の話です。それで街路はいたつて静かでもこの町にはまだ街燈のない時ですからくら闇の中にありました。

たまに人が一人ぼつちで半月の光にかすかに照らされてゐる街路を急いでゆく位でした。そこに縄を手にして小さい男の子がおづおづと夜の闇の中を歩んできました。薬局の前へ立止まりました。そして呼鈴をならしました。

薬剤師の一家は既に眠つてゐました。それで薬剤師はこの真夜中におこされて大變氣をくさらした、それで彼が窓を開けてその小供をみた時二言三言怒の言葉を投げました。子供は泣き出しました。それで薬剤師は家の戸を開けてやりました。

『何が入用なんですか』と彼はやつと怒をかくして尋ねました。

『お母さんの薬を買ひにきました。お母さんが死ぬ程悪いんです。どうぞこの処方箋を御覽下さい。』

彼が薬をこしらへてゐる間子供はおづおづしながら部屋の隅でうづくまつてゐた。それから縄に一杯につめた薬がその子供に手渡されて子供がお母さんを助けよう家へ走り歸りました。

薬剤師は再び床へ入りました。俄かに彼はさびあがりましてそして階下へ急いで下りてゆきました。

あの子供にまちがひのない薬をやつたかし

【註】 mal'lev'igi 下る (leviĝi はあがる。levi はあげる)。epoko 時代。brui 騒音をたてる。vagon'aro 列車。aŭtomobilo 自動車。rapidi 急ぎゆく。mal'lumo 暗。lanterno 提灯、街燈等。manki 缺乏す。mal'ofte 稀に。du'on'luno 半月。botelo 罇。tim'eme ビクビ

クで。apoteko 薬舗。sonor'ilo 呼鈴。apotek'isto 薬剤師。ĉagren'igi 氣をくさらす。nokt'o'mezo 真夜中。mal'fermi 開く。ek'plori 泣きだす。dom'pordo 家の戸。medikamento 薬。recepto 処方箋、處方。pret'igi 準備す。kurac'ilo 醫藥。kaŭri うづくまる。akcepti う



medikamenton, li pensis. Sur la magazena tablo staris malŝlosita botelo, kies etiketon kaj surskribon li ne bone atentis antaŭ minutoj pro la duondormo. Nun li rigardadas terurigite la etiketon: du ruĝaj krucoj kaj inter ili la vorto—veneno!

La viro paŝas ekscitite tra la ĉambro, senĉese ripetante: Mi estas mortiginto de l' patrino. Kial mi ne demandis la nomon de la knabo? Eble mi ankoraŭ povus malhelpi la malfeliĉon. Sed nun ĉio estas vana!

Malespere li sidiĝas sur seĝon.

Ĵus la sonorilo ree eksonas. Kiam li malfermas la pordon, eniras la fremda knabo, forte plorante.

Ektremante la apotekisto demandas: “Kiel fartas via patrino?”

“Si mortos! Si mortos!” kun larmoj plendis la knabo. “Pardonu, kara sinjoro, ke mi denove petas la medikamenton. Antaŭ nia dompordo mi falis kaj rompis la botelon.”

La knabo daŭrigis plori kaj timeme observis la vizaĝon de la viro, kies koleron li timis. Sed tiu ĉi viro nun certe mem ploris, ĉar kelkaj larmoj glitis sur liaj vangoj. Tiam li ĉirkaŭprenis la knabon kaj donacis al li sukeraĵojn.

Kiam la knabo ĝojigite forlasis la apotekon kun nova medikamento, la viro diris, ke li vizitos lian patrinon.

[el Heroldo de Esperanto]

けいれる。plen'ig'ita 一杯になつた。hejm'e'n 家へ。en'lit'iĝi 就寝す。ek'salti さびあがる。mal'supr'e'n 下へ。magazeno 店舗、みせ。mal-ŝlos'ita 栓をぬいた。etiketo レッテル。sur'-skribo 貼紙の上書。du'on'dormo 夢うつゝ。terur'ig'ite 驚かされて。ekscit'ite 興奮して。

らんさ彼は考へました。店の机の上に栓をあけた罎がありました。先刻は寝氣混りだつたのでその罎の貼紙や名称をしつかりさみませんでした。今彼はその貼紙をみて驚きました。二つの赤い十字とその間に毒藥といふ字がかいてありました。

彼は興奮して部屋をあるきまはりました。絶えず『俺はあの子のお母さんを殺したのだ。なぜあの子の名前を尋れなかつたろう? きいてをけばこの不幸をふせぐことができたろうに。しかし今となつてはすべてが無駄だ、皆駄目だ!』

絶望して彼は椅子に腰かけました。

丁度その時ベルが再びなりました。彼が戸口をあけた時あの子供が大變泣きながら入つてきました。

薬剤師はふるえながら尋ねました『お母さんの御容態は?』

『お母さんは死にます! 死にます!』涙を流してその子は訴へます。『藥屋さん、どうか許してくださいどうぞもう一度藥を下さい。僕宅(2)の戸口でたはれて罎をこわしました。』

子供は泣きつゞけました、そして怒られるかと心配しておづおづと薬剤師の顔を見まわりました。併し薬剤師も又泣いてゐたのでせう。彼の頬をつたつて数滴の涙が流れましたから。そこで薬剤師はその子供を抱きしめて砂糖菓子をやりました。

子供が新しく藥をもらつてよろこびいさんでその藥舗を立去つてゆく時薬剤師はその子供にお母さんを見舞にいつてあげませうと云ひました。

sen'ĉese 中斷なく。morti'ig'into 殺人。mal'-helpi 邪覽す。mal'espere 絶望的に。de'nove 更に。rompi こはれる。daŭr'igi 續ける。observi 觀察す。gliti ずべる。ĉirkaŭ'preni 抱く。donaci 寄贈す。suker'ajo 砂糖。ĝoj'ig'ite よろこばされて。for'lasi la domon 家を去る。



# 笑 話 數 篇



Haĉjo petis, ke la avo aĉetu por li tamburon. “Ne”, rifuzis la avo, “sen tamburo vi faras jam sufiĉan bruon dum la tuta tago!”

“Sed, aĉjo, mi promesas al vi, ke mi tamburosin nur tiam, kiam vi dormados!”

【譯】 春チヤンはお祖父さん太鼓を買つて下さいとお願いしました。『いやだめだ、お前は太鼓がなくてさへ一日中十二分騒々しいぢやないか。』といつてはれつけました。

『しかし、お祖父さん。僕お祖父さんの眠つてゐる間だけ太鼓をならす様にお約束しますから。』

Sinjoro: Kaj se mi mortus, ĉu vi venus al mia funebra ceremonio kaj ankaŭ ofte vizitus mian tombon?

Fraŭlino: Jes, kompreneble, sinjoro, kun granda plezuro.

【譯】 紳士『で若しも僕が死ぬるやうな事があつたらあなたは葬式にもきてくださつたり度々墓参りもして下さいますか。』

令嬢『え、勿論大悦びで参りますわ。』

Edzino: Aĉetu por mi novan veston.

Edzo: Sed, edzino, diru do al mi, kial vi, virinoj, bezonas tiel multe ornami vin kaj ĉiam deziras havi novajn vestojn. Ĉu vi kredas, ke tiaj luksaj vestoj plaĉas al viroj?

Edzino: Ho ne, ni tute ne volas plaĉi al viroj, ni nur deziras enviigi aliajn virinojn!

【譯】 妻『新しい着物を買つて下さい。』

夫『でもれお前。お前達女はなぜあんなに着飾らなきやならないんだ。そして何時も新しい着物をほしがつてゐるんだかそのわけをいつてごらん。お前達はそんな贅澤な着物が男の氣に入るさおもつてゐるのかい。』

妻『いゝえ、私達はちつとも男の方になんか氣に入らうと思つてゐませんわ。たゞ私達は他の女の方を羨ましがらせたいだけなんですわ。』

Patrino: Kial vi tiel plorkrias, mia infano?

Knabeto: Ĉar miaflugdrako tute nudiĝis kaj ĝi jam ne flugas plu.

Patrino: Kion tio signifas?

Knabeto: Antaŭ horoj la infaneto surverŝis inkon sur ĝin kaj tial por forlavi la inkon mi ĝin enakvigis en la rivero. Sed ho ve! kiam mi ĝin denove elprenis, ĝi jam estis tute nuda.

【譯】 母『坊やなぜそんなに泣くの。』

子供『だつて僕の尻がすっかり裸になつちやつて飛べないんだもの。』

母『それは又何ういふ事なの。』

子供『先刻(さき)赤ちやんが尻の上へインクをぶつかけしたのでそのインクを洗ひ落そうと思つて川につけてをいたんだよ。それにそいつを引だしたらすっかり裸になつちやつてゐるんだもの。(紙がなくなつて骨許りになつたこと)。』





# 新聞の 에스語 森 露 夫

★Proksime de Hyères, Francujo, kunpuŝiĝis du militaeroplanoj kaj falegis. La kvar aviadistoj perdis la vivon.

★La franca barkŝipo Louis Pasteur subakviĝis pro ventego en la Brita Markolo proksime de la franca bordo. La ŝipanaro dronis.

★Brita vaporŝipo survoje al Calcutta kunpuŝiĝis pro nebulo proksime de Gibraltar kun hispana vaporŝipo kaj subakviĝis.

★La 31-an de Marto oni festis en la sciencaj rondoj de l' tuta mondo la 200-jaran datrevenon de la mortotago de l' angla natursciencisto Isaac Newton, kiu eltrovis la leĝon de l' gravitacio kaj pro tio kreis la fundamenton por la moderna fiziko.

★Generalo Sir John Du Cane, la ĝisnuna ĉefkomandanto de la brita armeo en la okupita Rejnlanda teritorio, estas nomita guberniestro de Malto.

★Terura tertremo suferigis Jugoslavujon. Oni raportas pri la ruiniĝo de miloj da domoj kaj la morto de ĉ. 600 personoj.

★Brulo tute ruinigis la lernejon en la vilaĝo Karavaikovo (U. S. S. R.). Preskaŭ ĉiuj lernantoj kaj la instruistoj brulmortis.

★La germana Parlamento esprimis sian konfidon al la nova registaro kun 235 kontraŭ 174 voĉoj.

★Okaze de studenta demonstracio kontraŭ universitata profesoro en Bagdad ok partoprenintoj estas mortigitaj de kontraŭuloj.

★En Honolulu estas malfermita Panpacifika Konferenco. Ĉeestis 200 reprezentantoj el Usono, Kanado, Latin-Ameriko, Japanujo, Aŭstralio, Ĥinujo kaj Filipin-insularo.

佛蘭西イエールの近傍 (proksime de) で軍用飛行機二臺衝突 (kun'puŝ'iĝi) 墜落した。飛行家4名惨死。

佛蘭西の小帆船 ルイ・パスチュール 號は佛國海岸寄りの英吉利海峡 (mar'kolo=海峡) 上にて暴風のため沈没 (sub'akv'iĝi) した。

英國汽船カルカッタへ航行中 (sur'voje 途上にて) 濃霧のためシブラルターの近傍にて西班牙船と衝突沈没した。

全世界の科學界に於ては三月三十一日英國の自然科學者 アイザック・ニュートンの二百年祭 (歿後二百年——二百年目の命日——西洋では誕生日で何百年祭を勘定するのが多い。) を催した。彼の發見した引力 (重力) の法則の結果近代物理學の基礎が造られたのである。

ラインランド占領地 (okup'ita 占領された) の英國軍總司令官たる ジョン・デュー・ケーン 卿はマルタ島の總督 (guberni'estro 知事) に任命された。

激震ユーゴスラヴ國をおそつた。 (sufer'igi 悩ます) 幾千の家屋と約 (ĉ.=ĉirkaŭ) 六百の人命とが失はれたと報ぜらる。

露國カラバイヨヴ村の學校は火災のため全く灰燼に歸した。殆んど全部の生徒と教師が焼死した。

獨逸國議會は新政府信任案を二百三十五對百七十四票にて可決した。(直譯すれば信任を表明した)。

バグダードにおける大學教授反對の學生の示威運動の際八名の參加者が反對派の者に殺害された。

ホノルルに於て汎太平洋會議が開かれた。米國, 加奈陀, ラテンアメリカ, 日本, 濠洲, 支那, 比律賓より二百名の代表者出席せり。

(El Heroldo de Esperanto)



# 會話の 에스語

案内記【Gvidlibro】

植田 高三

Kiom longe ni, japanaj esperantistoj, sopiris al la apero de gvidlibro por Japanujo skribita en Esperanto!

Antaŭ nelonge nia deziro fine estis plenumita: ĵus aperis "Gvidlibreto por Japanlando" (Esperante skribita), kiun eldonis nia Japana Ministrejo de Ŝtatfervojoj.

La belega pentraĵo sur ĝia kovrilo montras unu paĝion en bela malnova kostumo, kiu dancas sub plenfloranta ĉerizarbo kun ventumilo en la mano.

Ĝi enhavas 37 ilustraĵojn (4 el kiuj estas fototipiaj) de fame konataj pejzaĝoj kaj de vidindaĵoj kaj 8 landkartojn de grandaj urboj kaj de vizitindaj distriktoj kaj unu grandan landkarton de l' tuta Japanujo kun fervojaj linioj.

Ĝi havas formaton de 13 × 19 c.m. kaj 112 paĝojn.

Ĉiuj fremdlandaj vizitantoj al Japanujo nepre devas posedi la gvidlibron, ĉar en ĝi oni multe pri-skribas ne nur pri vizitindaj lokoj kaj informoj por vojaĝantoj, sed ankaŭ pri japanaj propraj popolaj kutimoj, moroj, produktaĵoj, industrioj kaj similaj.

Ĉiuj fremdlandaj samideanoj, kiuj volas vojaĝi tra Japanujo, nepre sin turnu al la pasaĝera oficejo en la Trafika Fako de l' Fervoja Ministrejo en Tokio kaj petu la gvidlibreton kaj informojn.

En la ĉiumonata gazeto "Turisto", eldonita de Japana Turisto-Buroo (aŭ Japana Turisma Servo) troviĝas kelkaj artikoloj skribitaj en Esperanto.

Ni esperas ke la ministrejo eldonu pli ampleksan kaj pli kompletan gvidlibron per Esperanto en la estonteco.

gonnanaに長い間我々日本のエスペ란チストがエスペラント語で書いた案内記の出現をのぞんでゐたことでせう。

最近我々の願ひがやつとかなひ近頃エスペラントで書いた『日本案内記』が我が鐵道省から出版されました。

其案内記の表紙の繪は一人の小姓が優美な昔の装束をして満開の櫻の樹の下で扇を手にして踊つてゐる有様を表はしてゐます。

其案内記には有名な景色や名所を示した三十七個の挿繪があります(その中四枚はコロタイプ寫眞版のものです) 尙ほ大都市や名所の地圖が八枚と鐵道線路を書きこんである(kun) 日本全土の大地圖が一枚ついてゐます。

それは 13 センチメートルに 19 センチメートル(四六判)の大きさで百十二頁あります。

日本訪問の外人旅客は必ずこの案内記を手に入れねばなりません。さういふのはその中には單に名所や旅行者への注意許りでなく日本の固有の風俗や習慣や産物や工業等についても書いてあるからです。

日本を旅行しようさういふ外國の同志諸君は必ず東京にある鐵道省運輸局旅客課に照會の上案内記等を要求されよ。

シヤパンツーリストビューローから發行される月刊雜誌「ツーリスト」には毎月エス語の記事が出てゐます。

我々は將來我が鐵道省が一層大なる一層完全な案内記をエス語で出版されんことを望む次第です。



# 科學の 에스 語

Anatomio 【解剖學】

進士 正 夫

La koro estas la plej grava vivorgano, aganta de la unua momento de l' vivo ĝis la lasta spiro. Senĉese ĝi ricevas la sangon kaj ĉiam ĵetas ĝin en la arteriojn, elastajn tubetojn trairantajn tra ĉiuj partoj de la korpo, kiuj per la sango liveras la necesan nutraĵon kaj la oksigenon al la histoj kaj organoj.

Ĝia movado signifas vivon, ĝia halto kondiĉas morton, ĝia saneco estas la ĉefa kondiĉo de sana nutriĝo por ĉiuj organoj. Kun la malkovro de la sangeirkulado de Harvey nova epoko komenciĝis en la medicina rondo.

La koro kuŝas en la antaŭa parto de l' brusta kavo inter ambaŭ pulmoj kaj post la brustosto (sternumo). Ĝi lokiĝas maldekstraflanke, inter la dua kaj la sesa ripoj, ripozante sur la diafragmo. Ĝi havas la formon de renversita konuso, kies bazo estas direktata dekstren kaj malantaŭen, kaj kies pinto maldekstren kaj antaŭen.

La pezo de l' koro ĉe plenaĝulo estas ĉirkaŭe duona procento de l' tuta korpa pezo, t. e. ĉe sepdek-kilogramo homo 350 gramoj.

Ordinare ĝia grandeco respondas la grandecon de la pugno. La forto de la kormuskolo dependas de l' disvolviĝo de la tuta muskolaro de l' korpo. Tial virinoj ĝenerale havas koron pli malpezan, ol viroj.

心臓は最も大切な器官であつて生命の最初の瞬間から最後の息を引きこる迄活動をします。それは絶えず血液を受入れて常にそれを動脈へ送り出します、——動脈は身體の各部へゆき渡つてゐる弾力性の小管であつてそれは血液によつて必要な營養素と酸素とを組織及び器官へ供給します。

其の活動は生を意味し其の停止は死を定め其の健全は各器官の營養の完全の主條件であります。ハーヴェイの血液循環の發見と共に醫學界に新時代が始まつた。

心臓は胸廓の前方兩肺の中間、胸骨の後方にあります。そしてそれは左側で第二肋骨と第六肋骨との間にあつて横隔膜の上に横はつてゐます。そして倒さに置いた圓錐狀でその基底は右後方に向ひ其先端は左前方に向つてゐます。

心臓の重さは大人に於て全體重の大約 0.5 プロセントであります、即ち七十斤の體重の人では 350 瓦あります。

其の大きさは通常拳の大きさに相應します。心筋 (kor'muskolo) の強さは全身の筋肉の發達の如何によります。故に一般に女子の心臓は男子のよりも輕うございます。



“Marta” はポーランドの女流作家 Eliza Orzeszko(エリザ・オルゼシュコ)の原作。作者の許可を得て Zamenhof 博士がエス譯したものの。原作者に就ては、ポーランド文學に就て知る所のない私はある文學史家の口を籍りて「オルゼシュコは英文學に於るサイラス・マーナーの著者の地位をポーランド文學に於て持する」と云ふ丈に止めます。エス譯ではこの他に Kabe 譯の “Interrompita kanto” “A … B … C …” “Bona sinjorino” 及び “Pola antologio” 中に含められた短篇などがある。之等の他の諸作は兎に角としても、Marta はエス譯文藝作品中最も讀むに價するもの。これは最も信頼すべき同志の一人なる某氏の麗筆によつて既に日本語に反譯され、近く出版される筈。私は同氏の名譯が世に出る前の modesta な先觸れの役をつとめ、且つ Marta を讀まれない方々に、エス譯のみに依つて吾々が喜びと誇りを以て接し得る最も薰高き作品の一つとしておススメしたい。

Marta は作者が冒頭に掲げた言葉に依つて、一の問題を投じた小説であることがわかる。即ち實際的な社會問題としての女子の職業である。男性は女性に永遠の愛の焰を燃やすことを要求しながら、然もその爲に必要な條件と資力を與へることを拒絶してゐる。善良無垢で慈悲深い母親である寡婦の Marta は何故に悲惨の底に落ちて行つたかを作者は吾々に考へさせようとしてゐる。即ち職業上に於る男女兩性の機會均等と女子職業教育の必要である。専門的な智識や技術を具へない許りで、又パンを購ふ道は多く男性に依つて鎖されてゐるか爲に、愛すべき典型的な女性 Marta は無残にも極貧と窮乏に踏み蹂られて行つた。作者は公平な態度で、Marta が辿つて行つた道にあるべき儘に明かに示し、同性に對する偏愛と異性に對するいはれ無き反抗さを顯してはゐない。が併し吾々の誰もが Marta 一卷を通讀する際に受ける、如何なる無情漢の胸にも響かすにはおかないあの深刻な感銘、よるめきながらごん底に沈んで行く Marta の姿を涙の霧を通して目送する吾々の魂からもれるかすかな吐息、それらは決して、こちたき理屈のみからは生れはしない。何故ならば、この作に於ける作者の社會問題の取

扱ひ方は社會組織を解剖的にながめんとする現代の吾々にとつて稍飽き足らぬものがあるからである。作者が狙つた社會生活の一部門なる職業上に於る性の撤廢と女子の職業教育は、現代に於ては、他の多くの婦人問題と同じく、一般的な經濟的社會問題に還元されて、そこから初めて徹底的な主張を産むのである。故に吾々は Marta に依つて、社會組織に關する、現實を透視する週到なる觀察とそれを統整する徹底した鋭利な論理とを教へられる事はない。又構造に就ても、作者の稍我儘な感傷に依つて強ひられた不自然な技巧と吾々の想像を抑止する程に細密にすぎる描寫とが感ぜられる様である。且又教養ある志操堅固な寡婦を徹底的に最惡の生活苦に喘がせる爲に、作者は彼女の女を凡ゆる身内から孤立せしめた。それは既に可成に重大な例外的な事柄でなくてはならない。それを以て一般化された社會問題を創ることは稍正鵠を失する様である。

が兎もあれ、Marta は嚴めしいテクニツクの々たる羅列に人目を脅す論文ではない。優れた薰高い藝術品である。作者が寡婦 Marta に寄する萬斛の同情と美しい義憤と深い感傷を包む詠嘆とは、靜平にして週到細緻を極め、而もつゝまじやかな筆端に隱見しつゝ吾々の胸に共感の波を呼び起し、默思すれば、週到な用意に導かれた、高雅な洗練された筆致に依つて、作者の女性らしい細かい觀察、纖細な感情、うら悲しい感傷とそして暖かい情熱とが、渾然として融和した一のアマルガムとなり、それより出る、不可思議な魅力を具へた香氣が行間から立昇るのを覺へる。それが何よりも吾々を捕へずには措かないこの作の力である。Orzeszko の妙筆に依つて、生彩を放つて生動する寡婦マルタ、子供のヤーニヨ、そして彼等を圍繞する人物と背景を觀める吾々の心に自づと漂ひ出す不可抗的な感傷の波にこそこの作の力がある。

Marta は中産の貴族の家に生れ、兩親の暖かい慈愛の下に世間的な勞苦を知らずして成人し、やがて家運が傾く頃、相當の暮の出来る愛敬すべき若者の妻となり、順調平和な月日の下に、妻として母としての幸福を享けることが出来た。が若さを頼んで、將來を思は



なかつた夫が急死した時、Marta を苛めんとする悲運の鬼のしもとは先づ鳴り初めた。今迄幸福と安易さに慣れ切つて、實世間に出て獨立の生活を營む用意の缺けてゐた彼女の女は、果もない暗黒の曠野の中にたゞ獨り投げ出された様なたより無さを感じながらも、いさげない愛兒を抱いて、この曠野を渡らうと雄々しい決心をする。が併しパンを與ふる職業と云ふものは専門的な智識や技術を前提とすることを彼女の女は知悉すべきことを忘れてゐた。Marta は教養ある善良な家婦、慈愛深い母としては申分はなかつたが、職業人としては殆んど劣等者にすぎなかつた。柔かいパンはおろか、硬いパンをすら稼ぐことは容易でなかつた。實際に生きる事の苦慘を初めて味はひ知つた Marta の絶望は Janjo に對する母としての愛に打ち消され、彼の女は辛くも立直つた。かくて彼の女が懸命の努力を以つて拾ひ出さうとする限られた職業の分野は多く男性に依つて占められてゐた。やがて生活の敗殘者なる貧しい寡婦の群の中に伍して雄々しい努力を續ける彼の女は無慈悲な人ごゝろと殘酷な運命に奔弄されて、どこ何處までもつきまゝ悲慘の窮極に迄たどり着かれれば止まなかつた。苦境のごん底に沈潜してしまひ、日毎の言語に絶した苦惱に呆然となつて了つた彼の女の魂は、たゞ瀕死に喘ぐ愛兒への思ひのみによつて機械的に占められてゐた。彼の女をこゝまでつき下した無形の社會惡に對する名狀しがたい忿懣に心は麻痺し、終日意地悪く彼の女を苦める藥と金との幻の拷問に氣も半ば狂して、店頭に在る紙幣を奪つて逃れた。そして群集に追はれた彼の女は自ら疾驅する馬車の車輪の下に飛び込んで、一生の苦慘の結末をつけることができた。併し星空の下に、輝く街の上に盜人の汚名を冠せられた哀れな殘骸と火の氣もない屋根裏に恐らく最早息をひきとつた愛兒を残して。

今 Marta が通つて行つた數々の身を喰みさるやうな恐ろしい職業やその限りない苦慘を私の鈍感な筆先で退屈に羅列する事は罪だと思はれる。Marta の、魂を嚙むやうな悲嘆、全身を熱火に置くやうな羞恥、深淵の底に沈みゆくやうな絶望、止むなく涙の中に溶けて行かればならない遣場のない深い怒り、それらはまことに異なつた筆に依つて書き變へられない唯一不二の切迫した雰圍氣である。安價な感傷を弄ぶことは惡趣味であるが、Marta に心を曇らすことは決して恥づべ

きことではない。Marta に於る涙の價值は一讀後誰でも肯ける所であらう。

附記——Marta は餘程前に讀んだ事が有ますが、只今編輯期日に迫られて走り書を強ひられてゐますので、237 頁の大冊を再讀する暇が有ませんが、一讀の際受けた感銘は今尚生々しく心に印されてゐます。常に鋭敏な愛の觸覺を以て人間の不幸の源を窮めずにはゐられなかつた Zamenhof 博士が、數多い古今の傑作の中から Marta を撰んで、かくも感激的な名譯をされたことは容易に肯けます。

Marta の最後の場面に Marta が紙幣を奪つて逃げて行くのを、群集が追つかけて行く所があります。今そこから最後の行までをこゝに引用します。

Kaj tamen la instinkto de memkonservo videble ne tute ŝin forlasis, la morto ŝajnis al ŝi pli terura ol la homoj, ĉar antaŭ momento ŝi deflankiĝis ja de tiu rekta linio, sur kiu kuris al ŝi la liberigonta morto.

Jes, sed nun ŝi denove komencas retiriĝi al tiu linio; la homo kun la flava lado sur la brusto kurantaŭiĝis el la pelanta amaso, etendis la manon kaj ektuŝis la randon de ŝia tuko. Ŝi eksaltis, stariĝis sur unu el la feraj reloj. .... kaj ŝi falis sur la teron.

—Haltu! haltu! —eksonis terura krio el la amano.

Sed la purpura okulo ne volis obei, ĝi ĉiam flugis antaŭen, kaj la hufoj de la ĉevaloj frapis sur la feraj reloj.

—Haltu! haltu! —kriis la amaso senĉese kaj kun terura voĉo. La veturigisto desaltis de sia sidejo, stariĝis, kuntiris per la mano la longajn kondukŝnurojn, kaj per voĉo raŭka de teruro li kriis al la ĉevaloj, ke ili haltu.

Ili haltis, sed tiam, kiam peza rado kun malgranda frapo jam deŝoviĝis de la brusto de la tere kuŝanta virino.

Kun tomba silento staris la amaso meze de la belega strato; la vizaĝoj, paliĝintaj de teruro, kaj la brustoj malfacile spirantaj de ekscitiĝo, kliniĝis super la malhela figuro, kiu simile al senmova makulo kuŝis sur la blanka nega sternaĵo.

La rado de la grandega veturilo frakasis la bruston de Marta kaj elpelis el ĝi la vivon. Ŝia vizaĝo restis netuŝita, kaj per la vitrecaj okuloj ŝi rigardis la stelplenan ĉielon.



# 質 疑 應 答

岡 本 好 次

★問1. Fundamenta Krestomatio p. 22 l.-11 の okupitaj は okupataj に非ずや。Lingvaj Respondoj 中に okupita の項あるも。尙同所の kiel okupitaj ili estis を estas としては誤りですか (Sisido-K 氏)。

◇答1. 忙しいを estas okupita といふ事に就いては仰の如く Lingvaj Respondoj 中にあります。(丁度本月號第192頁に出てゐる)。Z博士のお考へはあの通りと思ひます。okupi には 1) preni en posedon と 2) teni en posedo と兩文の意味があるので estas okupata か estas okupita かを決定し難いものと思ひます。Z博士の引例たる laboroj min tre okupas は明かに第2)の意の okupi が使用されてゐるのですし estas okupita は主に第1)の意味が強く働いてゐると思ひます。こゝういふ語で常に 1)の動作を示すに常に ek-okupi を用ひ 2)の状態を示すにのみ okupi を用ひる様に決定すれば多忙は estas okupata でよい事になると思ひますが今の所かくきまつてゐませんから判りにくいと思ひます。之に類似の語に kovri, ornami 等あります。(Monto estas kovrita de neĝo.—Neĝo kovras la monton 等。) 御尋ねの F.K. 22頁の okupita も同様と思ひます。尙御説 kiel okupitaj ili estis を estas とすることは前後の意味からいへばよい様に思はれます。通例 kiel 以下の副文の動詞は主文の動詞と相關聯して主文の動詞と同時なら現在とし過去なら過去、未來なら未來とするわけですから。(Ekzercaro の用例では §15 の6 と §19 の5 に por vidi, kiel granda estos…… とあり。)

★問2. “konfesi” には Millidge によれば acknowledge と云ふ意味があるが (F.K. にもこの用法あり) 新撰、Kabe 等の辭典になきは如何 (Concise Oxford Dictionary によれば acknowledge は recognize the authority or claims of とあり) (同氏)。

◇答2. 成程 Millidge の辭典に acknowledge といふ語がありますがこの語は御示しの様に recognize …… 即ち權威又は要求を認めると云ふ意味に直ちに解し得ないと思ひます。即ち C. O. D. によれば admit the truth of 其他數個の譯語があります。丁度前號で申し上げ

た ebl に「出来る」といふ譯語をつけても日本語の「できる」といふ語には povas の意味があつても ebl にその意味を附加できませんのと同じと思ひます。小生は konfesi は Kabe の解釋の様でよいと思ひますそれ以上の意味をつけるのは少し devojigi してゐないかと思ひます。Fundamenta Krestomatio は隨分初期の作品が多く集められてゐて中には甚だ變なのがある事は Z博士の序言にもある通りである時代の作品には隨分各國の言語上の naciismo が深く入つてゐますので種々の語の用例に妥當でないのがかなりあると思ひます。F.K. p. 26. 4行目の Konfesu mian reĝan majeston …… の konfesi は recognize the authority of と解すればはつきりする様です。勿論 konfesi は自白の意から「認める」といふ意味もできますから或場合に konfesi を認めると譯してよいと思ひます。(つまり上の例の如きに於いて)。併し konfesi 一語の中に「權威又は要求を認める」といふべきかどうかは一すどうかと思ひます。

★問3. Ido 語の語原 (同氏)。

◇答3. Wüster によれば Esperanto の ido の意とも考へられ又 Internacia lingvo de la Delegitaro の I.D. をこつたとも考へられてゐる様です。つまり Beaufront の匿名として最初用ひられたものです。

★問4. Fundamenta Krestomatio p. 40, l.-1. の sed ĉiu folieto de floro estis duono de perlo の duono ……の意味 (石田氏)。

◇答4. すべての花瓣は眞珠の半分からなつてゐるといふのでつまりすべての花瓣が半球狀の眞珠から(眞珠は大抵球狀)できてゐるといふ意と思ひます。

★問5. F.K. p. 51, l. 3 の Pureco estas duono de vivo! は如何なる意か (同氏)。

◇答5. 十分判りませんが之はこの字義通りで pureco が生命の半分といふので之は魔法使の女が云つた言葉ですしその次に ŝi diris kaj ŝi elfrotis la kaldronon per la serpentoj ……とあつて釜をよくこすつて磨いたと書いてありますからこれは十分釜を pura にしてをかなければきゝめのある藥にならないといふことを云つたのかと思ひます。



# 單語研究雜話

I 6 I

川崎直一

## 22. bonzo.

Esp. の bonzo (坊主), mok.o (灸), gingko (公孫樹)の語源は嬉しい事には日本語です。

ポルトガル語に bonzo, 英語に bonze があるがこれは16世紀か17世紀頃西ヨーロッパには入ったのです。

Moxa(オランダ語)。これは17世紀に 1753 年の Dr. Johnson の辭書にもものつています。

ドイツ人でありながら、オランダの醫者に姿をかえて元禄初年日本に來た Kämpfer が 1712年書物の中に Ginkjo (=銀杏<sup>ぎんぎょ</sup>)と書くべきを Ginkgo と書き違えた。かくて 1771 年 Linné (植物學者)も Ginkgo bioloba とやり、Goethe も Gingo と使った。

以上は新村先生の研究で、もつと詳しい考證をされたのですが、私が勝手に mallongigi しました。でこの文中たゞえ誤りがあつても、それは先生に屬するものではありません。

## 23. ŝovinismo.

これはフランス語の chauvinisme がもとである。Scribe の著である *Soldat Laboureur* に Chauvin とゆう人物が出てくる。彼はフランス第一帝國の兵士で、ナポレオンの度を過した崇拜家であつた。それで最初 chauvinisme は「ナポレオンに對する盲目的崇拜」を意味したが、やがて「フランス人の盲目的愛國心」となり、更に一般的になつて「似非愛國主義」(新撰エス和)等廣く用いられる。

## 24. vandalismo.

文藝破壞主義(新撰エス和)。Vandaloj はドイツ系民族で5世紀頃アフリカのラテン教會を全滅せしめる等亂暴な事をやつた。それからこの言葉ができた。1914年ベルジユウムの Louvain 大學を bombardi したドイツ軍の行爲は近代の代表的 vandalismo ださ全世界から riproĉi された。

## 25. Brazilo.

ポルトガル人が南アメリカに渡つた時,brazilwood (蘇木<sup>すも</sup>)が非常に多かつたのでその地方を Brazil と名づけたのです。Ekvadoro 國の名は ekvatoro (赤道)が通つているからです。

## 26. demo.

Angla kaj Esperanta Etimologio とゆう本がある。„Oni povus aserti, je unu vidpunkto, ke la Internacia lingvo estas pli natura

ol la naturaj lingvoj, ĉar la plimulto de ĝiaj elementoj estas komuna al kiel eble plej multe da Eŭropaj lingvoj“ ださいつて DOMestic, MURal, TRANS-MARine enDORSment 等の例をあげ、又 Esperantaj Radikoj en aliaj Esperantaj Radikoj として atAVismo, BELadono, LAMPiro, aLUMeto, SCIenco, ŜOVelo, TEGmento 等、單語を覚えるのに役立つ事が面白く書いてある。

## 27. sinonimo.

「類義語の 究」が出たのを喜びます。日本人は特にこの方面に力を入れる必要がある。これをやるさ vorto の nuanco が良く解かるようになり vorto に intimeco を感ずる事が深くなる。イタリーから sinonimaro が出ているが思いきつて獨斷的で信用ができない。Kataluna Esperantisto 1926 majo. に P. Stojan は „Principoj de Esp“ の中で „… Oni distingas du specojn de sinonimoj: proksimumaj kaj perfektaj. La proksimumaj sinonimoj prezentas tre similajn, sed ne tute identajn, signifojn, ekz. instrui kaj lernigi, eta kaj malgranda, kolonelo kaj regimentestro, mondo kaj universo. La perfektaj sinonimoj prezentas unu saman signifon, ekz. evolucio=evoluo, idiomio=dialekto, kirŝo=ĉerizbrando, vermuto=absintaĵo, likva=fluida, letono=latvo, hungaro=maĝaro k. t. p. ……”

## 28. odekolono.

何かと思つたら Eau de Cologne (コロンの水即ちコロン香水)を發音的に書き直したもの。1709年 Jean Farina が Cologne (*Heroldo de Esp.* はこの近くで發行されている)で始めて造つた有名な香水である。

Kupokso (牛痘)が cowpox である事もちよつと氣がつきにくい。

## 29. melono.

Melono (まくわうり)はギリシヤ語の melon から來た語であるが、ギリシヤ語では pomo (りんご)の意味であつた。佛英兩語の melon は“まくわうり”であるけれど、イタリー語の mela は“りんご”の意味を保っている。

## 30. antologio.

これもギリシヤ語から、Anthos (=floro)と logia (=kolekto)。現在では主に詩集、文粹の意味。日本にも詞華和歌集とゆう勅撰集があつた。



## 新 刊 紹 介

【BIBLIOGRAFIO】

堀 眞 道

★ **ESPERANTISTA HIMNO** (Preĝo sub la verda standardo de Nia Majstro), muziknoto de Jozefo Seva, prez. sv. f. 1., eld. de Julio Mangada Rosennörin, Glavieta de Bilbas, 5 Madrid, Hispanujo, 1926.

ザ博士の有名な詩を作曲したもので第六回西班牙エス大會に獻げられたものである。

★ **RAPIDO**, E-to Stenografio laŭ la oficiala germana sistemo de Karp Wawllon, 15×21 cm., p. 32, prez. rm. 1, eld. de E & B. E-to-Verlag, Berlin, 1927.

全獨逸統一的の速記術として公認の最新式のもので、エス語の速記術の速成教科書である。全篇十二課に分つて丁寧に説明がしてある。

★ **NIĈJO MENSOGULO**, de Brătescu-Voinesti; trad. el rumana de T. Morariu, (N-ro. 10 de B. T.); 17×11 cm., p. 64., eld. de Rudolfe Mosse, Berlin, Germanujo 1927.

Biblisteko Tutmonda の第十篇でルーマニアの法學者にて作家である著者の代表作數篇を集めてある。殊に兒童心理の描出に名ある現代の第一人者であるこのこと。

★ **LA KARTO MISTERA**, de Cleveland Moffett, trad. de E. S. Payson, 10×16 cm., p. 44, prez. 1 ŝilingo, eld. de British E-to Association, 1927.

フランス語を少しも知らないロンドン子が花の巴里で美人からカードを渡される。其カードをめぐつて相續いて降りかゝる災難妻子友人を失ひ一生迷宮の中を引廻はされるといふ筋で甲賀三郎の「古名刺奇談」といふところである。興味ある讀物。

★ **BOHEMA E-TA ADRESARO** (de E-toj el ĉiuj landoj rilate nacieco, politiko kaj religio plene neŭtrala), 12×15cm., p. 46, prez. 0.50 sv.fr, eld. de Bohema E-to Servo, Moravany, Ĉeĥoslovakujo.

寫眞入りの會員名簿で番號で引くさ同志の小型寫眞が出て来るといふ變つた趣向のもの我と思はん者は御入會なされては如何。

★「エスペラントの本質」 倉地治夫譯, 四六版68頁, 定價三十五錢, 發行所東京市麴町區元園町1の18國際語研究社。

Esenco kaj estonteco de la ideo de lingvo internacia の譯で末尾に譯者の丁寧な註譯が附けてあるので内容を理解するに便である。川原豐川兩氏の共譯もあつたが震災後絶版になつた折柄宣傳には絶好の武器である。

★ **UNIVERSALA ESPERANTISTIGILO DE D-RO BENSON**, (kvina kaj sesa leciono) 10×14 cm. p. 32, prezo po 0.15 usona dolaro, eld. de Benson School of E-to, Inc. No. 3, 16th Ave., Newark, New Jersey, U. S. A. 1927.

例のベンソン氏專賣特許の繪讀本の第五課第六課である。値下げをして大勉強をして居る。獨特の新趣好は益々佳境に入つて面白い特に fidela, malfidela で Mario estas malfidela al sia edzo の繪などは腹を抱へて笑はせる。

★ **INTERNACIONALSTENOGRAFIO**, sistemo de stenografio internacia por ĉiuj lingvoj, gvidilo en E-to, de F de Kunovski, 14×22 cm., p. 8, eld. de Instituto de internacional-stenografio, Essen-Ruhr, Lübecher Strasse 63, Germanujo, 1927.

速記術の練習讀本である。獨逸で近頃此種のもものが續いて出るのは注目に値する。

★ **LA EVANGELIO LAŬ SANKTA MARKO**, 12×9 cm., p. 60, senpage, eld. de E-ta Kolportista Asocio, 64, St. Thomas' Road, Finsbury Park, London, N. 4. Anglujo, 1927.

基督教傳導の目的で出版されたセントマルコの福音書のエス譯である。郵税を送れば無代で配布する由。

★ **MILIONOJ KIUJ NUN VIVAS NENIAM MORTOS**, trad. el angla lingvo, 12×18 cm., p. 80, prez. 0.60. sfr., eld. de Garda Turo, Biblio-kaj-Traktat-Societo, P. F. 15988, Baden, Argovio, Svisujo, 1920.

基督教宣傳の書でヘルシンキの萬國大會で集會者に配布するため大至急で翻譯されたので文體はあまり良くないかも知れぬと斷つて来たところは正直である。現時世界萬般の題目を捕へて批判してあるところ仲々面白い讀物である。



# 太平洋の彼方 (小坂氏) (滯米日記抜萃)

★7月20-25日 北米エス大會

★7月26日 10時當地(フィラデルフィヤ)大新聞の一たる Ledger 社の女記者 Hostine 嬢から電話で社の工場を見物するなら11時15分に來てくれとの事……同嬢は北米エス大會中毎日出席して記事を書き大いにエスを宣傳してくれた……Lubinstein もついてゆきたいと云ふ、蓋し同嬢は22歳位の頗るの美人で老人連も噂する位だから若い連中は大騒ぎをやつてゐた。クリーブランドの Hoppe 君などは吾輩が同嬢から adreso をもらつてゐたのでそれを寫しこり Ho, mi dankas vin! と大喜びであつた。Lubi 君も工場見物にゆくとは知らず目的は他にあつてついて來たらしい。工場見物が了つて寫眞をさられる。他に一緒に見物した青年少女も一緒にうつす。それがその日の夕刊に「エスペランティスト本社を訪問」といふ寫眞になつて出てゐる。

★7月27日 Lubinstein, Daily 兩君とペンシルヴァニア大學に見物にゆく。學生が案内してくれる。Lubi 君は其學生を捉へて「小坂君は日本でアジア, Daily 君はアメリカ, 吾輩は波蘭で歐羅巴, 既に吾々だけで三大陸を代表してゐる。何ぞエスペラントは……」と宣傳をやる……(8月13日シカゴへ歸還)

★8月29日 朝寢てゐる中に例のインディアンの大男 Hud Daily 青年が訪れてきた、暫く話し、14時一緒にミシガン湖畔にあるシカゴ大學生有志のやつてゐる湖水浴のクラブにゆく。……例の男女共學或は混學の弊を大に發揮してゐる。今日馬鹿に寒いのに女學生連の中には靴下もつけぬ者もあり海水服で男學生連と cot の上に雑魚寝をしたりしてゐる。一寸例の gebaniĝo といふ, aĉa neologismo (?) を思ひ出させる。……女學生の手製の夕食を御馳走になり、夜 Daily 君が費府でのエス大會終了後無錢旅行をやつた話をし、吾輩がエスの話をする。

★9月9日 Daily 君から電話がかゝり P. P. Christensen が歐洲から歸つて來たから直ぐ來ぬかとの事でモリソンホテルへ行く。前大統領候補たる彼は卅階位の高い所にある小さい部屋に陣取つてゐる。それでも政客が二三人話しくる。上院議員候補として近日うつて出るので明日から遊説に出かける由。然しエスペラントの上達した事は驚く許り倫敦の Brita Esperanta Asocio で我が長谷川君に遇つた由。氏が1922年に日本へ來朝した時帝國

ホテルに訪れたのは長谷川、保坂及吾輩であつたのだから大に奇遇と云ふべし。

★9月15日 エス會に出席。

★9月19日 14時 North State Strato の Bahai の會合に出席。何ぞか女史の開會の辭とお説教あり、次で Christensen, 吾輩, Blay, Pope の四人がエスの話をする。……

★10月13日 17時55分 Detroit 着。見るさ大きな綠星旗を押したて、費府でのエス大會であつた獨逸青年 Hans Flemming 君を先頭に當地の御大 Tobias Siegel の息子 D-ro Paul Siegel 氏。エス印刷所の A. M. Coliner 氏が出迎へてゐる。Paul 氏の自働車で Hotel Book Cadillac にゆく。御大 Tobias Siegel 老は娘さんの御産が何時あるか判らぬので出迎に出られぬとの事。四人で夕食をしに出て歸りに Coliner 氏の Esperanto Presa Kompanio によつてみる。

★10月14日 9時半 電車で Ford Motor Co. の Highland Park Plant にゆく Ford Hitchcock 氏の案内で工場をみる。Siegel 老に云はせるさ Ford の工場は生地獄だそうだ。何しろ人間を masinero と見なして息づく間もあらせないのだから如何にみいりがよくとも殘酷である。13時頃ホテルへ歸る。14時 Paul Siegel 氏が迎へに來た。獨逸語の新聞社に寄る。此の新聞は昨日「日本の最初の鐵道を建設して小坂技師來る」と與太をさばしたものだ。日本の最初の鐵道が出来た頃は吾輩未だ生れて居らぬと大笑をやる。2916 E. Grand Blvd の Siegel 氏方へゆき御大 Tobias 老にあふ。絶對無神論で實に愉快的な爺さんである。三人で其娘さんの家へより Orion 湖の其別莊へゆく。こゝは Detroit から約 38 哩あり絶景である。此別莊は或患者からかたみに貰つたもので入口に美しいエスの紀念碑が立てゝある。Tobias 老早速屋根の上にある桿高く綠星旗を引あげ家の中へ入る。仲々よい somerdomo で、地下室に入れば Esperantismo と Kontraŭ-kristanismo の aĵoj をかざりビール葡萄酒の樽が並んでゐる。酒をのむには之をかぶつてからでなければいけないと綠星章附の ĉapo を冠せられる。Tobias 老スツカリ酔ばらつて了ふ。庭にでると中央地面上に綠石で大きな星形が作つてある。Esperanto-ŝtonbenko があり湖上には Esperanto-boato がもやつてゐる。Tobias 老はまさに世界一の aĉulo の資格が充分あるものと認める。



## Doppo Kunikida

# FATALISTO

—[ 6 ]—

〔國木田獨步原作「運命論者」連譯小説第六回〕

[Laŭ peto de l' redaktoro tiun ĉi noveleton tradukas dekelkaj eminentaj sinjoroj laŭvice.]

tradukis D-ro Sūzaburō Močizuki, Profesoro de Keiō Universitato.

Tiam li estis, al mi ŝajnis, multe konfuzita. Kaj eĉ la voĉo estis neordinara. Tial mi eksentis timon kaj komencis larmoplori. Pro tio li pli multe konfuziĝis. “Diru! Diru jes, se vi aŭdis! Ĉu vi intencas kaŝi?” Li fiksis al mi teruran rigardon, kaj mi des pli timigite, nur ripetis, “Pardonu min, pardonu min!”

“Mi ne postulas, ke vi petu mian pardonon. Ĉar mi pensas ke vi aŭdis ion strangan kaj pro tio eble vi meditadas, tial mi vin demandas. Se vi nenion aŭdis, vi ne bezonas timi. Nu parolu malkaŝe.”

Tiun ĉi fojon li diris vere koleriĝinte. Neniom komprenante kaj dubante ĉu mi efektive faris iun tre malbonan konduton, mi nur ripetis per plortremanta voĉo, “Pardonu min, pardonu min!”

“Vi, malsaĝa, idioto! Kiu postulis ke vi petu pardonon? Estante jam 12-jara knabo, vi facile ploras!”

Surprizite de lia kriego, mi rigardis lian vizaĝon kun larmoj. Li ankaŭ por momentoj rigardis min kaj tuj poste eklarmante, “Jam ne ploru. Mi ne demandas plu. Do reeniru la domon,” diris li mallonge sed kun tre amoplena voĉo.

Post tiam mia patro jam ne multe tuŝis plu pri mi. Sed samtempe en la fundo de mia koro aperis peceto da nuba ombro. Tiam ja demono de l' fatalo kaptis mian koron per siaj ungegoj.

De l' vortoj de l' patro kaŭzitajn dubon kaj matrankvilon povis mi neniel forigi el mia koro. En tia okazo, mi pensas, ordinara knabo baldaŭ forgesos tian aferon, sed tute kontraŭe mi ĉiam senĉese demandis al mi, kial la patro faris tian demandon.

Laŭ lia tiel granda konfuziĝo mi fine konjektis en la knaba koro, ke la afero devas esti tre grava kaj ekkredis ke ĝi havas rilaton al mi men.

〔運命論者〕——連譯小説第六回

【註】 al mi ŝajnas さ私には思はれた。konfuz'i 面喰はす、困亂さす。ne'ordinara 普通でない。larm'o'plori 嗚咽す。Diru jes はjesさいへ、はいと返事せよ。intenci 覺悟する。kaŝi かくす。fiksi rigardo'n デツと見つめる。des pli 益々。tim'ig'ite 吃驚して。pardonu min おゆるし下さい。postuli 要求す。mediti 熟考す。parolu mal'kaŝe 明らかに云へ。koler'iĝi おこる。plor'trem'anta voĉo 泣きぢやく

つた聲で。idiotio 白痴。surprizi びっくりさす。larmo 涙。por momentoj 一寸の間。re'en'iri 再び入る。am'o'plena やさしい、愛にみちた。tuŝi pri mi 私の事にふれる(觸れて話す事)。sam'tempe 同時に。fundo 奥底。pec'eto 小片。ung'ego 爪。kaŭzi おこす。for'igi さりさる。tute kontraŭe まつたく反對に。konjekti 推定した。klar'igi al mi 自分自身に説明す。kutim'iĝi 慣れる。mal'lumo やみ。ne'natura 不自然な。situacio 境遇。scipovi することが



Kial? Ankoraŭ nun mi ne povas klarigi al mi, kial mi kredis, ke la demando de l' patro al mi rilatas. Kiel tiu, kiu kutimiĝas vivi en la mallumo, povas vidi en la mallumo, tiel same knabo metita en la nenaturan situacion scipovas trovi nigran punkton en la fundo de l' malluma nenatureco.

Sed estis longa tempo, ĝis kiam mi povis kapti la veran figuron de la nigra punkto. Kvankam mi sentis maltrankvilon, mi ne povis demandi pri tio la patron, nek la patrinon.

Tiamaniere mi pasigis knabajn tagojn, nur turmentante min men. Kiam mi estis 15-jara, mi eniris en pensionon de iu liceo. Nun mi havas unu aferon rakonti al vi.

Proksime de mia domo sin trovis granda plantejo de morusarboj, apud kiu staris malgranda domo kun tegmento de splitoj. En ĝi loĝis maljunaj geedzoj kun sia filineto 16-aŭ 17-jara. Antaŭe la mastro estis samurajo kaj sur la plantejo staris grandega domo de l' familio. Tiu ĉi maljunulo estis mia bona amiko, kaj unu tagon li instruis al mi go-ludon. Du aŭ tri tagojn poste ĉe vespermanĝo mi parolis pri tio al miaj gepatroj. Ĉe tio la patro, kiu ne atentis ordinarare je mia ludado, riproĉis min kun kolero, kaj eĉ la patrino rigardis min kun mirigita mieno. Ili aspektis tute neordinaraj, kiam ili rigardis sin unu la alian, kaj tio estis tre stranga al mi.

Kial mi devas min deteni de la go-ludo; tion mi komprenis poste. Sed kiam mi tion komprenis, mi estis jam tute submetita sub la demono de l' fatalo kaj estis la komenco de l' nuna suferego.

\* samurajo=japana kavaliro en feŭdala epoko. \* go-ludo=japana ŝakludo.

此連譯小説は毎月交代で諸先生にお願いしてゐます。今回は慶應義塾大學醫學部教授醫學博士望月周三郎先生にお願い致しました。先生は昨年令夫人と共に世界漫遊の途から御歸りになられたのです。各地でエス語も大いに利用されたそうです。尙今度當學會の理事に新に就任して下さいました。

## ANEKDOTO

Haltigante aŭtomobilon, kurantan kun superregula rapideco.

Policano (kontrolanta veturilojn): "Estas riproĉinde, ke vi veturas 50 mejlojn dum unu horo."

Veturigisto: "Vi ŝercas, sinjoro! Mi ĵus ekveturis de tie, Mi ankoraŭ ne veturas unu horon.

Policano: "Ĉu?—Nu, bone!"

できる。estis longa tempo, ĝis kiam... する迄には長い時間が経過した, ...するには長い時間を要した。mal'trankvilo 不安。demandi la patron 父に尋ねる。tia'maniere そんな風にして。pas'igi (時)をすごす。pensiono 寄宿舎。liceo 中學校。proksime de ~ ~ の近傍に。plant'ejo 畑。morus'arbo 桑の樹 (moruso 桑の實)。splito へぎ板。samurajo 武士。go-ludo 圍碁。du aŭ tri tagojn poste 二三日たつて。vesper'manĝo 夕飯。ĉe tio そうすると, そ

れに對し, その際。atenti 注意をはらふ。riproĉi 叱る。mir'ig'ita mieno びっくりした顔で。aspekti みえる。rigardi unu la alian 顔を見合せる。de'teni min 自分をこらへてゐる, .....を我慢す。

〔一口噺〕 halt'igi 止める。aŭtomobilo 自動車。super'ragula rapid'eco 規則以上の速力。polic'ano 巡查。riproĉi 咎む, 責む。majlo 哩。vetur'ig'isto 運轉手。ŝerci 戲談いふ。kontroli 検査す, 監督す。



# ANTIKA ANATOMIO EN ORIENTO

DE D-RO PROF. S. NISHI

laŭ japana originalo libere rearanĝis R. URA.

Laŭ sia malgranda kono pri homa korpo antikvaj ĥinoj kredis ke la internaĵo de l' korpo konsistas el 5 solidorganoj (五臟) kaj 6 kavorganoj (六腑). La 5 solidorganoj estas hepato, koro, lieno, pulmo kaj reno, pri kiuj oni jam priskribis en "Suŭêng" (素問)<sup>1)</sup>, kiu estas la plej malnova medicina literaturo en la mondo.

Oni uzis por solidorgano la ideografon<sup>2)</sup> "藏", kiu signifas nur provizejon (kiun oni modifis depost "Sung-dinastio" (宗), aldonante litereron "月", kiu signifas karnon), ĉar oni pensis ilin kiel provizejon de psikoj. Laŭ "Ŝêngĉ'int'ient'unĝlun" (生氣通天論) en "Suŭêng" hepato enhavas animon (魂), koro spiriton (神), lieno volon (意), pulmo menson (魄), kaj reno intencon (志). Laŭ ilia kredo kvin organoj respondas respektive al kvin elementoj (t. e. hepato al arbo (木), koro al fajro (火), lieno al tero (土), pulmo al metalo (金), kaj reno al akvo (水)), kaj ankaŭ al kvin koloroj (t. e. hepato al blua, koro al ruĝo, lieno al flava, pulmo al blanka, kaj reno al nigra), kaj ankaŭ al kvin virtoj (t. e. hepato al homamo (仁), koro al rito (禮), lieno al konfido (信), pulmo al fideleco (義), kaj reno al scio (智)). Tia sistemigo devenas nur de la karaktero de ĥina popolo.

Por klarigi la kredon, ke la reno respondas al akvo, oni diras ke ambaŭ renoj kun abdomena aorto kaj malsupra kavovejno, kiuj troviĝas inter ili, similas al la figuro de l' ĥina ideografo por akvo (水), sed tio ne estas kredinda; mi preferas klarigi per la fakto ke la reno estas urinorgano. Estas strange ke ĥinoj respondigis la pulmon al blanka koloro, kontraŭe japanoj prave nomis pulmon "aogimo" (blua organo).

Kun granda miro oni povas trovi en la antikva ĥina ideografo por koro (心) ambaŭ atriojn, ventrikon kaj maldekstren kliniĝintan korpinton. Dekstra parto de l' ĥina ideografo por pulmo (肺) estas "市", kiu signifas disbranĉigon de arboj, kiu similas al tiu de bronketoj en la pulmo. Dekstra parto de l' ideografo por lieno (脾) estas "卑", kiu signifas malnoblecon, ĉar ĝi ŝajnas esti la plej malgranda kaj malnobla el la 5 solidorganoj. Iuj opinias ke la ideografo "脾" egalas al la ideografo "裨" aŭ "俾" kiu signifas "helpi", ĉar oni pensis ke ĝi helpas digestadon.

[東洋に於ける古代の解剖學]——西博士

【註】 kono 知識. homa korpo 人體. intern'ajo 內臟(内部の物). konsisti el~~より成立す. solid'organo (獨語 *Parenchymatöse Organ* 實質性臟器の譯で臟に當る). kav'organo (獨語 *Hohlorgan* の譯で腑に當る). hepato 肝臟. koro 心臟. lieno 脾臟. pulmo 肺臟. reno 腎臟. pri'skribi 叙述す. 素問 = 「神農百草を甜めて始て世に醫藥あり, 黃帝岐伯と問答して素問成る」と云はれて居るが周, 秦, 漢の時代

に成つたと考へた方が正しい. ideografo 表意文字. proviz'ejo 藏. modifi 修正す. Sung-dinastio 宗朝. psiko 精神. respondi 對應す, 呼應す. respektive 夫々. 5 elementoj 五元. flava 黃. 5 virtoj 五德. sistem'igo 系統化. de'veni de~~から由來す. karaktero 性格. klar'igi 説明す. abdomena aorto 腹部大動脈. malsupra kavovejno 下空靜脈. figuro 形, 様. ideografo por~~の字. preferas えらぶ. urin'organo 泌尿器. respond'igi 對應せしめる.



Tion saman ankaŭ japanoj pensis kaj tial ili ĝin nomis “jokoŝi” (kiu devenis de “josekoŝi”) aŭ “tasuke”, kiu signifas helpon.

Iuj opinias ke japana vorto “kimo” signifis antaŭe solidorganon, kaj poste oni koincidigis<sup>3)</sup> ĝin kun ĥina ideografo por hepato (肝), kaj tial nuntempe japanoj nomas hepaton kimo. Aliaj opinias ke la vorto kimo estas alivorte “komoru”, kiu signifas “enteniĝi” t. e. enteni en si psikojn, kaj tial ĝi devas signifi solidorganon.

Por koro japanoj havis nenian vorton kaj se ni prenis la vorton “kokoro”, kiu signifas animon aŭ spiriton, kiel ĝian nomon, ĝi signifas ankaŭ “keru” aŭ “komoru”, kiu havas tute saman signifon kun kimo. Kaj vere strange kaj mirinde ke la japana vorto similas al Esperanta “koro”.

Kelkaj japanaj nomoj de solidorganoj eble devenas de iliaj gustoj, koloroj, formoj kaj aliaj. De l’ gustoj devenas la vortoj: “ŝibugimo” (adstringa organo — “gimo” estas modifita formo<sup>4)</sup> de “kimo”) kaj “kakigimo” (persimono-organo — persimone adstringa gusto) por hepato, kaj “amagimo” (dolĉa organo) por lieno. De l’ koloroj devenas la vortoj: “akagimo” (ruĝa org.) por koro, “murasakigimo” (viola org.) por lieno, “aogimo” (blua org.) por pulmo, kaj “kurogimo” (nigra org.) por reno. De l’ formoj devenas: “marugimo” (ronda org.) por koro kaj “bukubukuŝi” (ŝvelanta) por pulmo. La nomo “murato” por reno devenas de tio ke oni pensis la renon kiel kolektiĝlokon (=“mureto”) aŭ trafluejon (=“moreto”) de spermoj.

Oni ne enkalkulis la superrenon en la 5 solidorganojn sed diversmaniere nomis ĝin: “mingmen” (命門), “ĉihsin” (志心) aŭ “ŝenĉih” (腎脂). La vorto “mingmen” signifas pordon de vivo, ĉar oni erare komprenis ke ĝi estas fonto de vivo aŭ organo por semoj, kiu faras semojn ĉe viroj kaj virinoj kaj forsendas ilin tra interna vazo spermatika al testiko aŭ al ovario.

Estas miro ke la pankreaso ankaŭ ne troviĝas en la 5 organoj; pri ĝi mi skribos poste en la sekvanta ĉapitro pri 6 kavorganoj.

1) verkita antaŭ 2000 jaroj.

2) ĥinoj uzas ideografojn, kiuj estas signoj reprezentantaj ideojn aŭ objektojn, anstataŭ literoj; ili similas je egiptaj hieroglifoj.

3) japanoj ne havis ideografojn nek literojn, kaj post interkomunikiĝo kun ĥinoj ili pruntis ĥinajn ideografojn por japanaj vortoj.

4) en japana lingvo senvoĉa sono ofte transformiĝas en voĉan sonon ĉe vortkunmetado.

5) mi nur uzis ĥinan nuntempan prononcon por ĥinaj nomoj kaj vortoj, ĉar oni ne povas diveni la ĝustan elparolon antikvan.

prave 正當に, 恰當に。atrio 心房。ventriklo 心室。mal’dekstr’e’n 左方へ。klin’iĝi 傾く。kor’pinto 心尖。dis’branĉ’iĝo 澤山の枝葉にわかれたる事。brank’eto 氣管支。mal’nobl’eco 卑しい。egalas al ~ ~ に等し。digest’ado 消化。koincid’igi 一致さす(それにあてはめる)。nun’tempe 今時。ali’vorte 別の語でいへば。en’ten’iĝi 中にふくまる, 籠る。gusto 味。adstringa 收斂性。persimomo 柿。dolĉa 甘い。viola 紫色の。ronda 圓い。ŝvel’anta ふくれて

ある。kolekt’iĝ’loko 集合所。tra’flu’ejo 流れ通る所。spermo 精蟲。en’kalkul’i 勘定に入れる。super’reno 副腎。divers’maniere 種々。fonto 源泉。semoj 種子。interna vazo spermatika 内精系血管 (=vasa spermatica interna)。testiko 睪丸。ovario 卵巢。pankreaso 胰臟。egipta hieroglifo エジプトの象形文字。inter’komunik’iĝo 交通。sen’voĉa sono 無聲音(清音)。voĉa sono 有聲音(濁音)。trans’form’iĝi 變形す。vort’kun’met’ado 語の合成。



## EĤO KAJ REEĤO

Ĉiuj, kiuj volas publikigi sian opinion al la tutmonde samideanaro sin turnu al tiu ĉi rubriko unupaĝa. Por liveri al niaj membroj la liberan tribunon kaj ankaŭ por informi gravajn okazintaĵojn en japana Esperanta rodno al tutmonda kolegaro, nia redakcio fondis tiun ĉi rubrikon. La redakcio rezervas la rajton mallongigi trolongajn artikolojn!

### Informoj de la redakcio.

1. Japana Ministrejo de Ŝtatfervojoj ĵus eldonis "Gvidlibreton por Japanlando" kaj intencas disdoni ĝin al multaj samideanoj en ĉiuj partoj de l' mondo. Pri la gvidlibro vi legu la artikolon en la 176-a paĝo de tiu ĉi numero.

2. D-roj K. Kuroita, profesoro de Tokio Imperia Universitato, N. Kii, ano de Instituto de Infektmalsan-j de T.I.U., W. Ohiŝi, estro de l' Aerologia Observatorio en Tatenō, S-ro E. Asai, prof. de Osaka Fremdlingva Kolegio, Segaua, prof. de la 4-a Nacia Kolegio, J. Ogaŭa kaj K. Jamakaŭa, helpprofesoroj de Kjŭŝŭ Imp. Universitato post nelonge vizitos Eŭropon.

D-ro H. Asada kun sia edzino vojaĝis al Eŭropo tra Siberio kaj li intencas viziti la tombon de Nia Majstro kaj semi semojn de japanaj propraj kreskaĵoj. Li volas uzi Esperanton kiel eble plej multe en la vojaĝo. S-ro Uĵaku Akita, fama dramisto japana, volas viziti Rusujon en la venonta aŭtuno. Ĉiuj estas tre fervoraj samideanoj. Eŭropaj Kolegoj, bonvolu helpi ilin en ilia vojaĝo! Bonan vojaĝon al ĉiuj!

### 1. Aperu valoraj verkoj originalaj!

...Jam ĉiuj esperantistoj kaj ĉiuj favorantoj por Esperanto ne dubas ke Esperanto estas la plej taŭga lingvo por literaturo. Tagon post tago aperas novaj tradukaĵoj de diverslingvaj literaturaĵoj. Estas dankinde ke ĉiuj samideanoj en malsamaj landoj pere per Esperanto povas pliriĉigi sian konon per alilandaj literaturaĵoj trezoroj.

Sed se unu fojon ni nin turnas al la flanko de originalaj verkaĵoj skribitaj en Esperanto, ni ne povas kaŝi nian malkontenton.

Kompreneble mi ne opinias ke ĉiuj originalaj verkoj jam aperintaj estas senvaloraj. Iuj estas vere tre valoraj kaj menciindaj, aliaj estas interesaj al ĉiuj samideanoj. Sed la nombro estas tute malgranda. Tio min malkontentigas.

Leginte kelkajn originalaĵojn mi rimarkis ke ili estas interesaj por Esperantistoj sed mi bubis ĉu ili estas valoraj kaj interesaj por ne-esperantistoj, se ni ĝin rakontus aŭ tradukus.

Mi ankaŭ volas riproĉi libramantajn sinjorojn, kiuj bonkore akceptas ĉiujn originalajn verkojn esperantajn sen kritiko kaj estas tro indulgemaj por riproĉi la senvalorecon aŭ malbonan stilon de tiaj verkoj.

Estas ridinde ke nur pro tio ke la verkoj estas skribitaj en Esperanto ili toleras legi tedajn verkojn. Ĉiuj kritiku severe ĉiujn originalajn verkojn kiel siajn naciajn verkojn.

Ĉu severaj kritikoj velkigas ĝermon de Esperanta literaturo? Ne, tute ne! Severaj kritikoj nur donos bonan influon sur ĝin, ĉar ili atentigas originalistojn ke ili verku pli bonan, pli fierindan.

Kresku kaj floru Esperanta Literaturo!  
(Tomojuki Murakami)

### 2. Represu malnovajn verkojn elĉerpitajn.

Ĉu ne estas granda bedaŭro ke multaj bonaj literaturaĵoj verkitaj antaŭ longe en Esperanto malaperas unu post alia for de nia librovendejo? Mi tion tre bedaŭras kaj volas proponi al tutmonda samideanaro, ke ni penu konservi ĉiujn ĝis nun aperintajn literaturaĵojn, ĉar ili ĉiuj estas fruktoj de grandegaj laboroj de ĉiulandaj samideanoj.

Kiamaniere ni agu por tiu celo? Mi proponas:

1) Ĉiu nacia societo esploru la nomojn de jam elĉerpitaj verkoj, kiuj estis eldonitaj en sia lando, kaj kolektu la verkojn.

2) Ĉiu nacia societo komisiu al kompetentaj esp-istoj ke ili reviziu la verkojn (ĉar multaj malnovaj tradukoj estas erarplenaj kaj ne havas indon represi sen korekto) kun granda atento.

3) Esperantista Centra Librejo aŭ iu alia eldonejo entreprenu represi kaj eldoni ilin kun malgrandaj prezoj

4) Oni presigu ilin per malgrandaj presliteroj. (J. Okamoto)



kaj tiuj malĝojoj; ili ankoraŭ nun restas tie kiel 91 epigrafoj kaj frosttremigas la koron de vizitanto. Ĉiuj, kiuj tiam engravuris sur la sensentan muron siajn malfeliĉon kaj fatalon per malvarma ferpeco, jam longe malaperis en la senfunda truo de l' estinteco, kaj nur la senvivaj skribaĵoj ankoraŭ nun restas ekspozite en la monda lumo. Mi eĉ pensas, ĉu ili per tio intence volis moki sin mem. Ni bone scias, kio estas ironio, en kiu "blanka" ofte signifas "nigra" kaj "malgranda" "granda". Kaj la plej akra ironio estus tiu, kiun oni senkonscie postlasas al siaj postenuloj. Tomboj, monumentoj, medaloj, ordenoj! Ili ĉiuj ekzistas nur por rememorigi al ni pasintajn tempojn. Oni ofte diras: Mi foriros, restos tamen tiu, en kiu mi daŭrigos mian vivon. Li tamen samtempe ne rimarkas, ke ne estas li, kiu restos, sed estas, kiu rememorigos al liaj posteuloj lin jam foririntan. Kiu do volas moki sian vantan vivon, postlasu nur ironion al siaj posteuloj. Ĉe mortlito mi ne verkos mian lastan version. Post mia morto oni ne starigu tomboŝtonon. Mia kadavro estu forbruligota, mia skeleto pulvorigota kaj la pulvoro disblovigota en la liberan aeron, kiam okcidenta vento forte blovas. — Mi estis tiam tiagrade absorbata de tiaj vantaj pensoj.

La skribmanieroj de l' epigrafoj estas kompreneble tre diversstilaj, unu estas skribita tute malrapide en vertikala stilo por pasigi tempon. Alia malĝentile skrapita aŭ pro agito aŭ pro indigno. Tria prezentis

familian blazonon kun elegantaj literoj, kvara nelegeblan frazon en ŝildo. La lingvoj uzitaj estas ankaŭ same diversaj, kiel la skribmanieroj. Krom la angla ekzistas ankaŭ la itala kaj la latina. Sur la dekstra muro mi legas:

Mia penso estas ĉe Kristo.

Ĝi estas la frazo de Pastro Pasley, kiu estis senkapigita en 1537. Apud la frazo staras subskribo: Johan Decker. Kiu estas tiu Decker, mi ne scias. Suprenirinte la ŝtuparon, mi trovas sur la pordo literojn: T. C. La mallongigo al mi malpermesas diveni la skribinton. Iom fore de ili troviĝas tre zorgema laboro: dekstraflanke kruco garnita kun kero kaj apude skeleto kaj insigno. Iom pli antaŭe mi rimarkas ŝildon, en kiu mi legas:

Vane igas min la fatalo plendi mian suferon al senkora vento.

La tempo estu frakasita! La stelo estu al mi sufiĉe malĝoja kaj kruela!

Kaj plue:

Estimu homon, amu homaron, timu Dion kaj respektu reĝon!

Mi nun prezentas al mi la senton en la koro de l' skribintoj. Ekzistas ja tre multe da malagrablaĵoj en la homa vivo. Sed la plej malagrabla inter ili estas sendube la enuiĝo. Nenio estas pli malagrabla ol la monotoneco de l' konscia enhavo, kiu kvazaŭ nevidebla fadeno firme ĉirkaŭligas nian ageman korpon. Vivi



estas ja agi mem. Kun la ago malpermesita, la vivo perdas sian signifon, kaj kiam ni konscias nian vivon malliberigita, ĝi devas esti al ni pli dolora ol la morto mem. Ĉiuj, kiuj makulis la muron tiamaniere, vere spertis tian doloron pli severan ol la morto. Ili ĉiuj toleris kaj elportis ĝin tiel longe kiel eble, kaj, kiam ili fine ne povis deteni sin pli longe, ili komencis uzi pecon de najlo aŭ siajn akrajn ungojn, por serĉi laboron en enuo, por plendi malkontenton en paco kaj por ekbati ondojn sur trankvila maro de l' koro. Ĉiu litero, kaj ĉiu vorto en la frazoj estas nenio alia ol la esprimo de l' nevenkebla postulo de l' instinkto, en kiu ĝemado, plorado kaj ĉiuj ceteraj fizikaj rimedoj trankviligaj ne povis helpi al ili.

Mia fantazio iras pluen. Kiu naskiĝis, devas vivi. Oni devas nur vivi, ne ĉar oni timas la morton. Ke oni devas vivi, estas la granda leĝo, kiu ekzistis antaŭ Kristo kaj Konfucio kaj kiu same ekzistas depost Kristo kaj Konfucio. Oni devas vivi, ĉar oni volas vivi. Oni bezonas nenian klarigon por tio. Ĉiuj homoj devas vivi, kaj la homoj tie ĉi enkarcerigitaj devis ankaŭ vivi laŭ la granda leĝo. Antaŭ iliaj okuloj tamen ŝvebis senĉese la morto. "Kiamaniere mi povus forkuri de la morto?" estis la sola demando, kiu de tempo al tempo lin turmentadis. Kiu unu fojon eniris la ĉambron, devis nepre morti. Apenaŭ unu inter mil povis revidi la brilan sunon. Pli-malpli frue ili devis nepre morti.

La granda vero universala samtempe ordonas al ili, ke ili vivu, ke ili nepre vivu. Ili tial devis vole-nevole akriigi siajn ungojn por skrapi la unuan literon sur la malmola muro. Apenaŭ ĝi estas farita, la vero ankoraŭ ĉiam flustras al ili, ke ili nepre vivu. Apenaŭ la ungoj vunditaj resaniĝis, ili jam rekomencis skrapi la duan literon. Antaŭvidante, ke la karno estos jam morgaŭ dissirata kaj la osto frakasata sub la peza klingo de l' hakilo, ili tamen neniam interrompis la deziron daŭrigi sian vivon en la signojn, kiujn ili faras sur la malvarma muro. La figuroj sur la muro zigzage skrapitaj estas nenio alia ol la postsigno de ilia forta sopiro al la vivo. Kiam inia fantazio povis ŝpini la fadenon ĝis tien, mi subite eksentis, kvazaŭ la malvarma aero de l' ĉambro estus trablovinta tra mian tutan korpon kaj frosttremis. La muro ekŝajnis nun malseka. Mi palpadis ĝin per fingra pinto; ĝi estis glita. Mi ekzamenis la fingran pinton kaj ektrovis ĝin ruĝe kolorita. De l' muraj anguloj gutetas akveroj, kaj jen! sur la planko ili desegnas neregulan figuron el freŝruĝaj punktoj. La sango elŝvitinta el la 16-a centoĵaro! Eĉ ekaŭdiĝas ĝemo el la interno de l' muro, kiu pli kaj pli proksimiĝas ĝis ĝi aliformiĝas en teruran kanton sonantan tra la nokto. Estas subtera kelo, en kiu du viroj laboras. Vento el la Demona Lando enblovas en la ĉambron tra fendo de l' ŝtona muro. La flamo de malgranda lanterno flirtas kaj la plafono kaj anguloj de



## 動詞

### “estu timata”なる表現

“estu timata” といふ云ひ表はし方は全く規則正しく正當に用ひられてゐます。ロシア語では“timi” といふ語には受動形がありません、併しこの事がエスペラントに於ても亦“timi” は受動形をさつてはならぬといふ事を示すものではありません。總べての vivanta lingvo に於ては唯自分よりも先に他の人が既に使用した語形しか使ふ事が許されてゐないのであります；併し國際語に於ては唯單に論理(logiko)に従ひさへすればよいのです。論理上から云へばあらゆる動詞は唯その意味(senco) さへ許すならばすべて受動形をさつて差支へないわけです。所で“timi” といふ動詞に於ては他の動詞に於けると同様に意味上受動形が許されます。恐れるといふこと(timado)には常に二つの人物又は事物が存在します：即ち其一は恐れる方のもので他の一は恐れられる方のものです。“De l' malamikoj vi estu timata” は“ke la malamikoj timu vin(=je vi 又は antaŭ vi)” の意味になります。ロシア語では“t mi lin” とは云はないで“timi de li” と云ひますが然しこれはロシア語獨特のものであつてあらゆる他の言語に於てもかくあらねばならぬと云ふわけのものではありません。既に其意味それ自身が“timi” と云ふ動詞を目的格と一緒に使用してよいことを示してゐます(それは又他の澤山の言語に於てもさういふ風に用ひられてゐますそして勿論又受動形も存在してゐるのです；併しもし假りに意味上さう云ふことがいはれぬとしても、我々の文法が明かにそれを認めてくれるのです、即ち我々の文法によればあらゆる疑はしい場合には我々は前置詞“je” 又は前置詞なしの目的格を使用できるからであります。それ自身少しも目的格をさらない語からでも我々の言語に於てはもし單にその受動形の意味が了解できるものならば自由に受動形を作つてもよいのです。かくて例へば“Al la Esperantisto” といふ詩に於て“la celo estos alvenita”(=oni alvenos al la celo) といふ云

に或は名詞なしに用ひられることができる(此の後者の場合には“homo” といふ語を言外に認めるのである)。“u” をもつた形はそれ自身の中に常に名詞或は代名詞の觀念を含んでゐる。が一方“a” のついた形は形容詞の觀念をもつてゐる。上述の二組の語の間の差異は最もよく次の文例によつて了解できませう：Kiu venis? Venis Petro; venis botisto; venis li — En kiu urbo vi loĝas? Mi loĝas en Parizo; mi loĝas en tiu ĉi urbo. — En kia urbo vi loĝas? Mi loĝas en bela urbo; en granda urbo. — Ĉu vi vidis la ĉambristinon aŭ la kuiristinon? Mi vidis nenium servistinon. Ĉu vi vidis junan servistinon aŭ maljunan? Mi vidis nenian servistinon.

“tiu—tia”, “ĉiu—ĉia” なる語の間の差異は“kiu—kia” “iu—ia” “neniu—nenia” なる語の間の差異よりも一層大であり明瞭である；故に我々は決して“tiu” 或は“ĉiu” の代りに“tia” 或は“ĉia” を用ひることが出来ないが“iu, kiu, neniu” の代りに“ia, kia, nenia” を用ひても屢々誤ではないのです(勿論常に出来る限り之等の語の混用を避けるのがよいわけですが)。(La Revuo, 1908, Februaro)

### “tiela”

私が今日まで決して“tiela” と云ふ語を是認しなかつたこと云ふ貴下の御考へはまちがひです。我々の言語の法則に従つて全く規則正しく造られた“tiela” や“tiele” なる語に對して私は是認することを拒否せなかつたのは勿論のこと私自身ずつと以前から時々之を使用さへしてゐたのです。私は單にこれらの語を濫用したり或は之等の語を全く不必要だのに一層簡単な“tia” や“tiel” の代りに使用したり或は尙すゝんで之等の語を常に基本語(fundamentaj vortoj)の代りに使用しようとしたりする事を賞めるわけにはゆきません；併し“tia” “tiel” の語の意義を一層強め(pli akcentita)て云ひ表はしたい場合に“tiela” 及び“tiele” なる語を使用するのは大變結構だと思ひます。それは單に許容し得ること云ふ許りでなく大いに推奨すべきものであると考へます。(La Revuo, 1907, Februaro)



ひ方は規則に違反して使用されてゐるわけではありません。

(La Esperantisto, 1890, p. 32.)

## 分詞名詞

私は “defendinto la patron” を使用することをおすすめ致しません。私は寧ろ “defendinto de la patro” をえらびます。(P. Fruictier 氏が Esperanta Sintakso の第13頁へ私的書状の中から引用したもの)

## 分詞名詞

エスペラントに於ては分詞名詞 (participo-substantivo) は通常人 (又は或る機能を営む事物) を意味するものです：若し我々がこの分詞に外の意味を帯びしめようと思ふ場合には接尾字 (例へば *aj* 或は *ec*) を用ひねばなりません。それ故私の考へでは “estonto” といふ語はたゞ “estonta persono” を意味するものでそれは “estonta tempo” 或は “estonta afero” を意味することができないと思ひます、それで私は後者の意味には “estonteco” 及び “estontaĵo” なる語を以て譯すべきことをお勧めしたいのです。(Oficiala Gazeto, III, 1911, p. 291)

### “okupita” か “okupata” か

ある仕事のために私が閑でない時には私は通例 “mi estas okupiita” と云ひます。或る人々はそれは正しくないと言ひます、そして今猶繼續してゐる仕事について話してゐるのだから “okupata” と云はねばならぬと考へるのです。幾度も之等の人々の云ふ事が正當のやうに私に思はれたのでその節私は “mi estas okupata” を使つてみました；併し私の言語感 (lingva sento) が反對するのでちきにこの形を放擲しました。この表現に於て現在分詞を用ふべきか過去分詞を用ふべきかの問題についてはフランス語も英語もこの兩分詞に對して各別個の形をもたないから我々に何等の解決をも齎らしません；併しスラヴ諸言語及びドイツ語に於ては上述の場合には過去分詞を用ひます、従つて此の事が既に我々がエスペラントに於てもそれと同様にしようとするに十分重要な動機となるのであります。併しそれだからこいつて非論

理的な形でありませうか。否そうではない。若し誰かが或るものを占有 (okupas) する (“prenas en posedon” の意味で) とすればその時その瞬間に其或るものが其の或人によつて okupata されるのである (la io estas okupata de la iu)；例へば敵が我々の町を okupas する時には町は其瞬間に彼等によつて okupata されるのである；若し私が全く自由であつて唯今の瞬間に仕事を與へられるとするならばその仕事は私を ekokupi することとなり私は今此の仕事によつて okupata される即ち仕事が私の時間を自らの所有として奪ひ去る (ĝi forprenas en sian posedon mian tempon.) と云ふ事ができます；併し若し私が既に以前に私に與へられた仕事について話すのならば即ち其の ekokupo の動作 (ago) それ自身に就いて云ふのではなく私が今居る所の状態 (stato) について云ふのならば私は “mi estas okupita” と云はねばなりません。尤も上述の文の受動形を能動形に変更する場合には我々は屢々現在形 (“laboroj min tre okupas”) を用ひます、併しそれは “okupis” と云ふ形では okupiteco が既に經過したと考へさせない事もないのでそのまちがひをさけるため現在形を用ひるのです。受動形においては “mi estas okupita” と云ふ語句は或事が私を okupis して猶まだ其 okupiteco が繼續してゐることを示してをりますから我々にはかゝる誤解をおそれる必要がないのです。“okupi” の意義には二つの意味合 (nuancoj) があります：即ち preni en posedon (手に入れること) と teni en posedo (所有して保持してゐること) の二つであります；我々は “mi estas okupita” の形で此二つの意味合を同時に云ひ表はす事ができますが “mi estas okupata” では第一の意味合のみしか言ひ表はす事ができないようです。其れは其れとしても “okupi” なる語についても私が他の澤山の言語上の質問に對して述べたのと同一の事を繰返へして申されねばなりません：即ち論理が我々に全く明白な疑のないしかも我々の言語感を害はない解答を與へない場合には常に現存の習慣に一致する様努めねばならないと云ふことであります。而して民衆の習慣によれば上述の如く “mi estas okupita” と云ふべきことを要求してゐるのであります。(Oficiala Gazeto, III, 1911, p. 293)



# 故松崎克己君紀念墓碑建設について

幾多の忘れ難い功績を残して逝かれた松崎君の爲に有志發起の下に皆様から募集した同君紀念墓碑建設醵金は幸にして 140 圓 22 錢の額に達しましたので種々相談の結果建築方面に携はつてをらるゝ我々の熱心な同志たる難波停吉君を煩はして墓碑の設計から石屋との交渉等一切を御依頼して松崎家とも打合せていたゞいて本年三月墓碑も完成し既に同家累代の墓地に建立を了へました。我々はこゝに深く此の舉に賛して御醵金下さつた同志諸兄並びに設計に御盡力下さつた難波君に深甚の感謝の意を表明致します。

尙來る六月19日下記の如き順序にて墓碑除幕式を舉行致します。在京並びに近縣同志の御來會を望みます。

## 故 松 崎 君 追 悼 墓 參

日時場所——六月19日（日曜日）午後正一時半迄に赤坂山王下市電停留所へ集合の上（赤坂區）臺町51種徳寺（山王下停留所より西の方へ入り仲町郵便局前の市場を通りぬけてすぐ）境内の同君墓碑へゆく。

順 序——未定（御寺をかりて茶話會の豫定。交渉中）

會 費——茶話會をすれば會費二三十錢。

## 紀 念 墓 碑 建 設 會 計 報 告

收 入（すべて寄附金） - - - - - 計 140 圓 22 錢

内 譯（寄附者芳名）

【1口=10錢】 越田平五郎、坪井潔、佐藤秀太郎、佐藤英夫、無名氏、難波停吉、小山信市、前川周治、佐々木スケマサ、内田富夫、平田鬼丸、山田弘、古川治平、荻原孝徳、西川利藏、野村公郎、大坪眞幸、京都A.K.T.、山中豊中、桐野與太郎、菊地孝太郎、内倉守信、三宅修治、荒井道太郎、T.S.、松林實、湯淺武進、和田米三郎、梅澤重、土肥實雄、城下明、鶴野正男、丸山すみれ、小河原幸夫、佐藤曉、中村清春、廣瀬義隆、古谷義人、福喜多脩、與石丑太郎、由比忠之進、池田善政、榊野助次郎、山岸常尙、永島秀夫、江島了、中川健次郎、佐伯耕一、谷垣琢磨、都筑喜三、柴山慶、石川清吾、朝見小三郎、門田直行、黒木浩、大野弘得、失名氏四名。

【2口】 上田秀子、中村次郎、水島重次、坂本正武、平岡、柏原忠治、鈴木、岡本、油、福富、田中、成瀬武一、大内充、川口、木村、小林、山田、尾上圭二、永江享、小澤、K. 生。

【3口】 小河原幸夫、田中道彦、松田政吉、椎橋好、加藤宣造、阿閉温三。 【4口半】 大栗清實。 【5口】 吉田竹之助、竹田平一、岡田清美、間泰藏、水島久博、前田華子、田邊、松本、脇坂、州崎敬三、瀬川重禮、内田雄太郎、進藤靜太郎、西田英夫、松原茂、重松太喜三、清水勝雄、齋藤力、鈴木憲一、小川梅吉、松葉菊延、大橋宇之吉、加部彌、川副馥、福西清治、伊部農治、長島庄兵衛、田崎虎雄、大島義夫、檜山亥、棍弘和。

【6口】 山崎弘藏。

【10口】 押田徳郎、石黒修、中本倭、武藤於菟、成田重郎、堤友久、石川美保子、鹿島卯女、丹内武雄、大井學、林道治氏外四名（=武田正雄、守田利雄、林茂、土居繁松）、磯部千鶴子、足立茂子、薄井富子、三宅。

【20口】 森田松枝、矢島さだの、安西田鶴子、川崎直一、村上知行、比嘉春潮氏外二名（=豊川善曄、李金祿）、保坂成之、三石五六、守隨一。

【30口】 安黒才一郎、井上萬壽藏、堀眞道、長谷川理衛。 【43口】 須々木要。

【500口】 小坂狷二。 【5口】 追悼會殘金。

【110口】 松崎家。

支 出 費（墓碑及建立費） - - - - - 140 圓 22 錢

以上故松崎君紀念墓碑建設委員一同



## JEMA

昨年設立された日本エス醫學協會 (Japana Esperanta Medicina Asocio) の本年度年鑑に登載する名簿のために

1. 昨年度名簿に載てゐる會員の住所の變つた人

2. 昨年度名簿にのらなかつたエス醫藥家は是非六月末日迄に下記へ御通知下さい。本會は會費を要せず只全國のエスペラント醫藥家を統括する團體であります。年鑑は出來次第全會員に配布致します。

東京帝國大學醫學部  
生理學教室

JEMA 中央幹事 鈴木正夫

### Revuo Orienta 昨年度合本

一部送料共 2 圓 60 錢 六月中旬發賣

Revuo Orienta 昨年度總目錄 (謄寫版刷) 御入用の方は郵券 2 錢封入 6 月 15 日迄に學會宛御申込の事。(發送 6 月 20 日)

## Internacia Sciencia Asocio Esperantista

1. 會費普通年額 1 圓。贊助會費年 5 圓。
2. 會員へは Bulteno (會報) を隔月一回宛頒布す。入會希望者は日本エスペラント學會へ會費をそへ申込の事。

### Internacia Radio-Revuo

誌代年額 2 圓 (五月號本誌廣告參照)  
日本エスペラント學會にて取次ぐ

### Internacia Medicina Revuo

誌代年額 2 圓 50 錢。東京帝大解剖教室西教授宛申込の事。(醫家エスペランチスト必讀誌。)

**旭光社** エス書取次の本社は今回都合により丸之内ビルヂングの出張店を閉鎖しました。併し本店 (芝區濱松町 3 の 1) でエス書を從來の如く取扱つてゐます。省線濱松町驛より市電大門停留所に向つてゆき左へ横の大通へ折れて約半町右側 (市電氣局濱松町倉庫筋向ひ) です。どうぞお暇の節おこし下さい。

## 日本エスペラント學會取次圖書 (前金でなければ絶對に送本しません)

日本で出版のもの 定價 郵税

|                     |      |     |
|---------------------|------|-----|
| ★ザメンホフ演説集 (エス文のみ)   | 0.70 | 4 錢 |
| ★夜の空の星の如く (上記演説集和譯) | 0.90 | 6 " |
| ★我國に於ける外國語問題とエス     | 0.60 | 4 " |
| ★日本語エスペラント小辭典 (三高)  | 1.00 | 4 " |
| ★新魔王 (エス文)          | 0.30 | 2 " |
| ★ブレーメンの音樂師          | 0.15 | 2 " |
| ★王様の新しい御衣           | 0.15 | 2 " |
| ★燈臺守                | 0.45 | 2 " |
| ★海の娘                | 1.20 | 6 " |
| ★心の片隅               | 0.50 | 2 " |
| ★詩集花束               | 0.80 | 4 " |
| ★力ル口                | 0.20 | 2 " |

外國出版のもの (部數僅少 乞即時注文)

|                      |      |      |
|----------------------|------|------|
| ★Tra la Jaro.        | 1.30 | 6 錢  |
| ★Verdkata Testamento | 1.20 | 4 "  |
| ★Georgo Dandin*      | 0.45 | 4 "  |
| ★Vivo de Zamenhof*   | 1.65 | 8 "  |
| ★Pro Kio             | 0.80 | 4 "  |
| ★Vortaro de Kabe*    | 1.45 | 8 "  |
| ★Revizoro*           | 0.85 | 6 "  |
| ★Rabistoj*           | 0.80 | 6 "  |
| ★Stranga idilio      | 0.50 | 4 "  |
| ★Ni Legu             | 0.95 | 4 "  |
| ★Fatala Ŝuldo        | 1.10 | 10 " |
| ★Tragedio de l' homo | 2.20 | 10 " |

\* 印はスエペランチスト必携必讀の書

(振替送金最も確實)

◆取次圖書は十部以上一割引 (但し送料は御負擔下さるべき事)

◆大賣捌店を介しての注文の際は取次圖書は取扱はず (大賣捌店へ割引せればならぬため尙學會の大損失をまねくから)

東京市牛込區 財團 日本エスペラント學會 振替口座東京 11325 番  
新小川町 3 の 14 法人





# 無代進呈

★ 宣 傳 の 『 葉 』 (講 習 會 用) 百枚以下無料 (但送料卅枚毎に四錢)  
 ★ 宣 傳 の 『 チラシビラ 』 (街上展覽會等で 配布すべきもの) 三百枚以下無料 (但送料百枚毎に二錢)  
 三百枚以上は百枚毎に實費送料共十錢にて

直接 當會 宛に 申込 限る

日本風景風俗エハガキ (四枚一組三色刷) (説明付)  
 (價廿錢送料二錢)

緑 星 章 (圓形七寶美麗) (安全ビ  
 (送料共三十錢) (ンドメ)

緑 星 旗 (紙) (十枚送料  
 (共十五錢)

半紙大原紙兩面綠色刷、左角四分の一は白地に緑の星、殘四分三は緑の地にエスペ  
 ラントと白く抜きたるもの。展覽會その他の際タコアシに使用して好適。十枚以下  
 賣りません。但し見本希望の方には郵券五錢送れば二枚送る。

## エスペラントの歌と其の譯

(四六倍大八頁)  
 (一部三錢送料二錢)  
 (十部送料共二十錢)

エスペラントの歌 La Espero, Sankta Lucio, Vi bordoj de la bela  
 Dun, Ho Normandi, Printempo, Adiau の六篇に和譯 (高尾亮  
 雄氏譯) を附し註を付す。

★當會出版書籍はすべて直接當會宛前金にて注文に限り十部以上二割引(送料も當方負擔)★

エスぺラント發音研究 (定價五十錢) (送料二錢) (發音上の疑問はす  
 べて本書にて氷解)

エスぺラントやさしい読み物 (特價二十錢) (送料二錢) (エス笑話二十二篇に  
 懇切な譯と註を附す)

新撰エスと辭典 (定價七十五錢) (送料二錢) (語數一萬五千餘語、譯語正  
 確、索出至便、附錄文法一覽)

エスぺラント捷徑 (定價一圓) (送料六錢) (四六版百六十頁クロース美本  
 (エス語獨習書中の白眉)

エスぺラント講習用書 (定價五十錢) (送料四錢) (一萬部賣切を機として表紙を堅紙  
 にし背をクロースに堅牢にせり)

講習の際には!! せひ當會發行の書籍を御利用下さい——本會出版物賣上の  
 益金はすべて我が財團法人の宣傳資金として使用されます

東京市牛込區新小川町3ノ14 (振替東京11325番)

財團 日本エスペラント學會



## KORESPONDA FAKO.

學會々員は年2回3行迄無料。掲載者は必ず返事を出すこと。一回30錢(3行以内) 30 sen por 1 fojo (3 linioj)。略字解: L=letero P=poŝtkarto, IP=ilustrita poŝtkarto, PM=poŝtmarko, bdf=bildflanke(切手畫面), G=gazetoj, E=esperantaĵoj, kĉl=kun ĉiulandaj (sami-deanoj)。

★Japanujo:—S-ro Sigeo Honda, Temma-poŝtoŝticejo, Osaka; I.P.P. aŭ L. Nepre resp.

★Japanujo:—S-ro Tookichi Itabashi, vendisto de ombreloj, Shigai-Hosobata, Gifu. kĉl. komercistoj IP. P. L.

★Svedujo:—S-ro Albin Johansson, Vallsberga Ekeby. per I.P.P. aŭ L.

★Japanujo:—S-ro Kan Yanagise, Gomen-machi, Nagaoka-gun, Koochi-ken. LP. IP. kĉl.

★Japanujo:—S-ro Meguru Takahashi, 8. Nagakura-machi, Fukuoka-shi. kĉl. L. IP. Interŝ. biletojn de ĉiuspecaj veturiloj.

★Japanujo:—S-ro Masa. Jamaguchi, Akashi-poŝtoŝticejo, Akashi apud Kobe; kun eŭrop. L. pri literaturo.

誌雜刊月

◎國字問題解決の先驅◎

## ローマ字世界

價 定  
錢 十二部一  
圓貳金前年一

◎日本の國字なるべき名譽と運命をもつた日本式綴方によるローマ字の雜誌!  
◎標準的綴方としての日本式ローマ字を應用し實際化したローマ字の雜誌を御覽なさい!  
◎ローマ字の日本式綴方の論據、要點等に就ては郵券二錢を御送り下されば『ローマ字のすすめ』といふ小冊子を差上げます。

財團法人 日本ローマ字社  
振替東京二一五〇四・電話小石川七〇一  
東京市本郷區駒込曙町十一番地

秋田雨雀・小坂狷二共著

## 模範エスペラント獨習

版八十第訂改

西洋の教科書の焼きなほしではない。語系を異にする日本人の爲めに全く新しい様式で講義されたものである。外國語の素養なき初學者も趣味のうちに習得が出来、既にエスペラントに熟達した人も他書に見出し得ぬ知識を求め得られる。〔布裝三八〇頁・定價二圓・書留送料十九錢〕

プリヴァ著・松崎克己譯

## 愛の人ザメンホフ

他の萬國語が盡く失敗せる中にエスペラントのみひこり今日の隆盛あるは何故ぞ。それは此の語が優秀であるの幾多熱心の士が崇高なるエスペラント主義、即ち人類主義に感激し、身をすて、普及に努力し、努力しつゝあるからである。人類主義の教科書たる本書二〇〇頁を讀むはエスペラント學習者の義務である。〔定價金一圓・書留送料十三錢〕

京東座口替振  
番九八八二四

閣文叢

區込牛市京東  
目丁二町樂神



斯界の權威

# 月刊 蠶絲

蠶絲は 斯業の専門雑誌にして言論の公正卓抜なるは世既に定評有

蠶絲は 深遠なる學說を通俗化し業者の好伴侶たる事に全力を傾注

蠶絲は 發行部數莫大にして絶大の權威を有す故に廣告の効力偉大

## 定價

一部金參拾錢(送料一錢)

半年前金壹圓八拾錢(送料共)

一年前金參圓六拾錢(送料共)

上田蠶絲專門學校講師  
高橋清七先生著

## 最新全芽條桑育蠶法

(第七版)

送料共金壹圓九拾六錢

農林省蠶業試驗場技師  
農學士鈴木廣吉先生講述

## 桑園改良講話

送料共金壹圓貳拾九錢

上田蠶絲專門學校講師  
高橋清七先生著

## 實驗蠶卵胚子解剖圖說

(大改訂第二版)

送料共金壹圓九拾六錢

一代交配蠶種普及團  
技師

## 蠶絲の人工孵化法

(第二版)

送料共金壹圓六拾六錢

上田蠶絲專門學校  
同窓會編輯

## 蠶絲業研究彙集

送料共金貳圓拾八錢

濱井蠶絲科學研究所長  
濱井壽夫先生著

## バラ蠶種製造法

送料共金壹圓六拾六錢

同

## 人工孵化蠶種飼育法

(第二版)

送料共金參拾貳錢

蠶絲雜誌社編輯部編

## 最新養蠶手引

(第二版)

送料共金參拾貳錢

片岡靜氏著

## 燠煙開放育蠶術

(第二版)

送料共金參拾貳錢

蠶絲雜誌社編輯部編

## 蠶の病氣と其豫防法

(最新刊)

送料共金參拾貳錢

發行所

長野市

蠶絲雜誌社

株式會社

社會

振替口座

東京上野

三三三八

七〇番



財団法人 **日本エスぺラント學會**

◆エスプレッソを愛するものは誰しも御入會下さい。(會員は法規上維持員とよぶ)

會 員 の 典 {

1. 毎月研究雑誌“La Revuo Orienta”の配布をうく
2. 出版圖書の割引をうくることあり
3. 語學上の質疑其他一般の問合の返事をうく
4. 宣傳の「栞」その他宣傳材料を無料でうくることを得

役 員 名 簿 (五十音順)

[illegible]

發行所

財團

日本エス・ペラント學會

東京市牛込區新小川町三ノ十四

印刷所

株式會社一匡印刷所

東京市神田區西小川町二ノ五

印刷人

高見澤保芳

東京市神田區西小川町二ノ五

編輯兼  
發行人

大井學

東京市牛込區新小川町三ノ十四

昭和二年六月一日發行

昭和二年五月二十五日印刷

料

告

廣

◆金錢に關係なき廣告四割引  
◆表紙第三頁は二割増の事  
◆表紙第二頁第四頁はお斷り  
◆特別會員の廣告は二割引

12回

圓 250

" 130

" 70

6回

圓 140

" 74

" 38

3回

圓 72

" 37

" 19

1回

圓 25

" 13

" 7

全頁

半頁

四半頁

口座番號  
本會振替

基本金専用東京三三八九番  
一般長野三二八三番  
會計用東京一二三三五番

學會々員には無代  
頒布す

(郵稅共)  
本誌購讀料

一部

錢 24

半年分

圓 錢 140

一年分

圓 錢 260